

静かなる戦争の為の沈黙の兵器

パンドラの箱(ギリシャ神話)ゼウスが全ての悪と災いを封じ込めて、人間界に行くパンドラに持たせた箱。

パンドラが好奇心からこれを開いたため、あらゆる罪悪・災禍が抜け出て、人類は不幸に見舞われる様になり、希望だけが箱の底に残ったという。[新明解百科語辞典、三省堂]

○これは次の三書の抜粋を分類し小見出しを付けたものです。

(1)『静かなる戦争の為の沈黙の兵器』(文明批評學會版)より

(2)『シオンのプロトコール』(五葉光彦訳)より

(3)タルムード(愛宕北山著『猶太と世界戦争』,四王天延孝著『ユダヤ思想及運動』その他)より

○分類の中見出しと各抜

抜粋文の小見出しは編者が付けたもので、原著にはありません。

○各抜粋文の末尾に<>で囲ったのは、原本の項目名です。

1)世界の奴隷化と第三次世界大戦

・奴隷化と計画的大量殺害無しには社会のオートメーション化は不可能である

社会コントロールと人間生活の破壊、言い換えれば、奴隷化と計画的大量殺害という広大な目標を含める事無しには、一国ないしは世界的規模の社会工学化、或は、社会のオートメーション化、すなわち、社会オートメーション・システム(沈黙の兵器)を論ずる事は不可能である。

<機密保持>

・『沈黙の兵器』は第三次世界大戦の宣戦布告である

この刊行物[沈黙の兵器]は、「沈黙の兵器」をもって闘われ、細菌戦と酷似した 戦争を遂行する「静かなる戦争」と呼ばれる第三次世界大戦の二五周年を記念して刊行されたものである。

この文書には、今、戦争とその戦略ならびに兵器についての序説が収められている。

<ご搭乗感謝>

・静かなる戦争は一九五四年、国際的なエリートによって宣戦布告された

静かなる戦争は、一九五四年、国際的なエリートによって静かに宣戦布告された。

沈黙の兵器システム[コンピュータ]はほぼ十三年遅れて姿を露わしたけれども、この新兵器システムの出現によって、重大な蹉跌を被ることは皆無となった。

この小冊子は静かなる戦争開始二五周年を記念する。

既にこの国内戦争は世界中の多くの戦線で多くの勝利をあげてきた。

<歴史的序説>

・ひそかにアメリカ人に対し静かなる戦争を仕掛ける

将来の世界秩序、平和、安寧のために、ひそかにアメリカ人に対し静かなる戦争を仕掛け、自然と社会のエネルギー(富)を、幼稚で処理能力のない大多数の人間から、自己訓練を積み遂行能力があり尊敬に値する少数者の手へと、恒久的に移すことを究極目標とする。

<エネルギー>

2)「沈黙の兵器」の特徴

・沈黙の兵器のテクノロジーの構成要素は公開の理想的改革案としても通用する

一九五四年、影響力を行使出来る地位にいる人々は、一般大衆が既成権力の寝台に手をかけて引っくり返すのは、たかだか数十年内という時間の問題に過ぎ無いという事を十分に理解していた。

というのも、新たなる沈黙の兵器のテクノロジーの構成要素は内密の理想的改革案として通用し、それと同様に、公開の理想的改革案として通用するものだからである。

<政治的序説>

・公衆の目には自分達の為になると見える様な新しい兵器を開発する

この目標に到達する為に、究極のところ、操作原則が非常に高度で精巧であり、公衆の目には自分達の為になると見える様な、その名を「沈黙の兵器」と呼ぶ一群の新しい兵器を開発し、確保し、適用する必要があった。

結論を言えば、研究対象となるのは、資本の所有者(銀行業)と商品産業(商品)とサービス[注・直接生産以外の労働]によって運営されている、全面的に予測可能でかつ操作可能な経済体制である。

<エネルギー>

・通常兵器に期待する事はことごとく沈黙の兵器に期待出来る

沈黙の兵器の開発者たちは、専ら機能の仕方という点に関しては、通常兵器に期待する事をことごとく沈黙の兵器に期待している。

それは将軍に代えるに銀行の実力者の命令により、狙撃手に代えるにコンピュータ・プログラマが、銃に代えるにコンピュータから、火薬に代えるに発生したデータにより、化学反応(爆発)に代えるにデータ処理によって推進し、銃弾に代えるに状況を射撃する。

それは明白な爆発音を伴わない。

明白に肉体的あるいは精神的な損傷の原因となる事無く、誰かの日々の生活を明白に妨害する事が無い。

しかも、それは明白に「ノイズ」を発生させる。

明白に肉体的或は精神的に損傷を負わせ、明白に日々の社会生活を妨害する。

求めているものを知っている、熟練した観察者にはそういう事が明白に判るのである。 <沈

黙の兵器についての序説>

・大衆はこの兵器に攻撃されている事が信じられない

大衆はこの兵器を理解することが出来ず、兵器に攻撃され征服されている事が信じられない。大衆は本能的には何か良くない事が起こっていると感じるが、沈黙の兵器の技術的な性質により、彼らを感じている事を理性的な形で表現することが出来ないか、知性をもって問題を扱う事が出来ない。

それ故、彼らは助けを求める方法が解らず、沈黙の兵器に対して自分を守るために他人と協力する方法が解らない。

沈黙の兵器がじわじわと大衆を攻撃すると、大衆は(経済経由で心理的な)圧迫が余りにも大きくなってマイってしまうまで、兵器の存在に自分を合わせ慣らし、生活への侵食を耐え忍ぶ事を学ぶ。

<沈黙の兵器についての序説>

・沈黙の兵器は細菌戦兵器と同一タイプの兵器である

沈黙の兵器は細菌戦兵器と同一タイプである。

自然と社会のエネルギーの源泉ならびに大衆の肉体的、精神的、感情的な強さと弱さを知り、理解し、操作し、攻撃する事によって、社会の各個人の活力、選択の自由ならびに流動性に攻撃を加える。

<沈黙の兵器についての序説>

・沈黙の兵器は初代ロスチャイルドのアイデアを成長させたものである

自分に国家の通貨をコントロールさせよ

そうすれば誰が法律を作ろうと知った事では無い

メイヤー・アムシェル・ロスチャイルド (1743年~1812年)

今日の沈黙の兵器のテクノロジーは、ここに引用したメイヤー・アムシェル・ロスチャイルド氏が簡潔に表現し、効果的に活用した、単純なアイデアを成長させたものである。

……もちろん氏は20世紀においては、これが大発見となるとは考えてはいなかったし、確かに、数学的な分析は第二次産業革命、力学とエレクトロニクスの学説、また、世界経済コントロールを効果的に発揮するためにはエレクトロニクス・コンピュータの開発を待たなければならなかった。

<理論的序説>

・「金力の外見を我が物にすれば人は金力を与えてくれる」

ロスチャイルド氏が発見したことは、上記の概念を経済学に適用した、権力、影響力、人民に対するコントロールについての基本的な原理であった。

その原理は「金力の外見を我が物にすれば、人は金力を与えてくれる」という事である。

〈ロスチャイルド氏が発見したエネルギー〉

・個人の好みまでもコンピュータ管理の下に置けるようになる

産業構造の下にある各個人の要素は、消費者本人である事を確認する(協会が認定)消費者動向コンピュータ協会の識別(包装に印刷されている万国製品コード UPCのゼブラ縞価格コード)の様に、識別された個人の好みも、コンピュータ管理の下に置かれる様になる。

(クレジットカードの使用を経て、将来は番号が通常の光の下では識別できず消える事の無い「入れずみ」をさせる事によって)

〈経済学への適用〉

・世界経済をコントロールする科学を確立する

ハーバード経済調査研究所(一九四八年～)は、第二次世界大戦のオペレーションズ・リサーチを拡張したものであった。

その目的は、まずはアメリカ経済、ひいては世界経済をコントロールする科学を確立する事であった。

数学的な基礎とデータが十分であれば、ロケットの弾道を予測しコントロールする事と同じ位、経済の動向を予測しコントロールする事は容易であると思われた。

そのことは事実が証明してきた。

さらに、経済は目標に誘導されるミサイルに置き換えられてきた。

……ハーバードの直接の目的は、経済構造、すなわち、構造を変える力、構造の行動を予測する方法、それを操作する方法を発見する事であった。

〈経済的モデル〉

・経済衝撃テストによって安い労働資源を得る事が出来る

航空機の機体衝撃テストでは、機体に搭載して発射させた銃器の反動の波動が起こす衝撃波が、航空機の部分か全体かその翼かに、ギター弦やフルートの弁や音叉の様な細かな或は荒っぽい振動を起こし始め、飛行中に崩壊するか空中分解するかの状況を、航空エンジニアに知らせる。

経済エンジニアは、[経済衝撃テストによって]同じ結果を獲得する。

すなわち、牛肉、コーヒー、ガソリン或は砂糖等の主要商品を注意深く選んで、経済と消費者大衆の動きを研究し、次には価格や有用性に突然の変化或は衝撃を与え、それによって、各人の予算と購買習慣を跡形も無く断ち切る。

次いで、経済エンジニアは、衝撃波に起因する広告、物価、あれこれの商品の販売における変化をモニターした結果を観察する。

こういう研究の目的は、経済一般の動向や変化を予測可能な状態にし、一般大衆が、ある種の「専門家」達が金のシステムをコントロールし、万人の為に(自由や正義よりも)安全を回復すべきだと確信している傾向を自滅させるノウハウまで得る事にある。

実験材料になる市民たちが、彼らの財政問題をコントロール出来無くなる時、彼らは勿論完全に奴隷化された、安い労働資源となる。

<経済衝撃テスト>

・金の流れと大衆の心理反応との間には数量で現わせる関係がある

[経済]衝撃テストによって、経済における金の流れと、被験者大衆の心理的外見ならびに反応との間には密接な関係がある事が解る。

例えば、ガソリンの価格と、頭痛を感じ、暴力的な映画を見たいと思ひ、煙草を吸ひ、ビールを一杯引っかけに酒場に行こうとする人との間には、数量で現わせる関係がある。

<経済衝撃テスト>

・経済破壊を通じて一般大衆を完全にコントロールするプログラムが得られる

最も興味深い事に、一般大衆が彼らの抱える問題から逃れ、現実を逃避する経済モードを観察、計測し、オペレーションズ・リサーチによる数字を当て嵌めると、一般経済の破壊(スモモの木を揺さぶる)を通じて一般大衆を完全にコントロールし 服従に持ち込む作為的危機(衝撃)の最も在り得る組み合わせを、コンピュータに予見させるプログラムを作る事が可能である。

<経済衝撃テスト>

・大衆から合法的強制力を使って入手したデータにより作動する

沈黙の兵器システムは、従順な大衆から合法的(必ずしも道義的とは限らない)強制力を使って入手したデータにより作動する。

沈黙の兵器のシステム・プログラマにとっては、国税庁を通じた大量の情報は利用価値が大きい。(国税庁の資料リストにある『アメリカ経済の構造研究』参照)。

この情報には、納税者と雇用者とが供給した奴隷労働によって提出され、収集され、計算された、連邦ならびに州の徴税書類に含まれた、よく系統立てられたデータの法的刊行物から構成されている。

その上、国税庁に提出された、このような大量の徴税書類こそは、戦略意思決定の重要なファクターとなる、大衆の同意を示す有力な指標である。

他のデータ資料については「入力項目の簡易リスト」を参照されたい。

〈同意…勝利の第一歩〉

3)王者とクラゲ

・簿記を駆使する者は王者となる事が出来る

エネルギーは地球上の全ての活動の鍵である。

自然科学は資源を研究して自然エネルギーを支配し、理論的には経済学に帰する社会科学は資源を研究して社会エネルギーを支配する。

この二つは簿記システムすなわち数学である。

従って、数学は最も基本的なエネルギー科学である。

そして、一般人を簿記の操作方法に無知のままにさせておけば、簿記を駆使する者は王者となる事が出来る。

全ての科学は究極の目的に達するための手段に過ぎない。手段とは知識である。

究極の目的とは支配である。

残る問題はただ一つ、「誰が利益を享受するか」だけである。

< エネルギー >

・経済学の分野で第一級の攻撃的戦闘能力を持つ必要がある

エネルギーが地球上の全ての活動の鍵となる以上、エネルギー、原料、製品、サービスの独占を達成する為には、また、奴隷労働の世界システムを確立する為には、経済学の分野で第一級の攻撃的戦闘能力を持つ必要がある。

我々の地位を維持する為には、全経済分野にわたってコントロールする絶対的な第一級の科学知識を持ち、世界経済を管理する第一級の経験を積む必要がある。

<要約>

・知性を用いようとしない人間たちの国々は知性を持たない動物同然である

知性を用いようとしない人間たちの国々は、知性を持たない動物同然だという話に決まった。

そのような人間は荷物運搬動物であり、自分から進んで食卓に上ったステーキなのである。

<エネルギー>

・頭脳を使わない人間は荷物運搬動物かその調教師となる他は無い

持っている頭脳を使わない人間は、頭脳が無いのも同然である。

だから、父親、母親、息子、娘というこれら知性の無いクラゲの学校は、荷物運搬動物、或はせいぜい彼らの調教師となる他は無いのである。

<実施のファクター>

・人類は機械であり、搦んで回す事の出来るレバーである

普通の状態では存在しないものは、計算によって強制的に明るみに出す事が出来る。

人類は機械であり、搦んで回す事の出来るレバーであって、社会をオートメーション化する事と、靴工場をオートメーション化する事との間には、ほんの僅かしか違いがない。

<徴兵>

・真の解決策はわれわれ少数者の手に委ねられている

一般大衆は、自分自身の精神構造を変える事や同胞に対する信頼を覆す事を拒む。

そのような野蛮人の群れが激増し、言ってみれば、地表を覆うアリマキ[葉枯れ病を起こす害虫]の大群となっている。

彼らは、彼らなりの宗教的モラルは持っているけれども、何故戦争を無くす事が出来ないかを教える経済科学の事は全く無知であり、宗教心や自己満足に浸って地上の問題を処理する事を拒絶し、現実問題の解決は自分達の手の届かない所へ押しやっている。

具体的な解決は、最も生き残るに相応しい者として知性をもって生き残ろうとし、真に彼らの事を気づかう者として彼らの問題を処理しようとする、我ら少数者の手に委ねられているのである。

そうで無かったならば、沈黙の兵器が明るみに出て、未来の真のヒューマニティの種子を確保する我々の唯一の希望が失われるであろう。

<時間の流れと自己破壊振動>

・社会の下層階級要素を全き統制下に置かなければならない

全面的に予測可能な経済を達成する為には、社会の下層階級要素を全き統制下に置かなければならない。

すなわち、こんな事になっているのは正しい事なのだろうかと気付かないうちに、躰、調教し、くびきを付けさせ、ずっと古い昔から行われている長期にわたる社会義務を植え付けなければならぬ。

<エネルギー >

4) 戦略と戦術

・戦略表実行目標または獲得物

大衆を無知にする	公共組織の衰弱
重要点(価格と売上げ)をコントロールする事にアクセスする	フィードバック出力に必要とされる反応
(大衆を)上の空にさせる	防衛力の低下
家族を攻撃する。 現金は少なく、 借金と施し物を多くする。	若者の教育をコントロールする。 もっと自堕落に、もっとデータを。
教会の独立性を攻撃する。	この政府のようなものに対する信仰を破壊する。
社会的画一性を図る。	コンピュータ・プログラミングを単純にする。
税に対する反抗を最小に押える。	経済データを最大にする。 強制する問題を最小にする。
同意係数を安定させる。	単純化。
はみ出しに対するコントロールを強化する。	コンピュータ入力データを単純化し 予知可能性を大にする。
境界条件を確立する。	問題の単純化。 差異の解決と差異同一化。
適切なタイミング。	データの変移と不明瞭さの減少。
コントロールへの抵抗を最小限に押える。	コントロールを最大限にする。
コントロールを最大限にする。	究極まで従属させる。
通貨の崩壊。	アメリカ国民相互の信頼崩壊。

・下層階級に与える教育は最も貧弱な質に留めなければならない

下層階級に与える教育は、下位の階級と上位の階級とを隔てる無知の堀をめぐらし、下位の階級の事は理解しがたいと思える程に、最も貧弱な質に留めなければならない。

このように初めからハンディキャップをつけておくことが、下層階級でも頭のよい者に、生活のくびきから救い出されるチャンスがあったとしてもごく僅かだと思わせる事になる。

このような奴隷制度は、上流支配階級社会の秩序、平和、安寧のパロメーターを保つ為に欠かす事が出来ない。

<エネルギー>

・大衆は貪欲であるが為に、限度を越えて通貨を発行しても平気である

彼[ロスチャイルド]は、誰が戦争の勝利者となるかを決める通貨のコントロールに乗り出した。

一国の経済システムのコントロールを彼に委ねることに同意した政府は、彼の支持を受けた。

負債が増えれば増える程、債務者の敵に経済的な援助が保証された。

この方法であがった利益で、ロスチャイルド氏はいやが上にも富み、いやが上にも富を拡げる事が出来た。

彼は、大衆が貪欲であるが為に、政府が貴金属と商品生産とサービス(国民総生産GNP)の裏付け無しに限度を越えて通貨を発行(インフレーション)しても平気であることを見抜いたのである。

<ロスチャイルド氏が発見したエネルギー>

・真実同胞を気づかうならばクレジットや福祉には頼らないだろう

もしも人々が真実同胞を気づかうならば、クレジットを、働く者から奪いグウタラ者を満足させる社会福祉システムに頼らないように、自分たちの欲望(貪欲、生殖など)をコントロールするであろう。

<時間の流れと自己破壊振動>

・最も単純な経済増幅装置の形態は宣伝と呼ばれる装置である

テレビの広告主から語りかけられると、人は被暗示性の為に、確かな確率で十二歳の児童そのものの様に無批判に暗示に反応し、その商品を買うべく衝動的に店に行き、自分の経済貯水池から経済エネルギーを放出する。

<経済増幅装置>

・人は母の子宮の代用保護物である人工子宮を作る

人は母親の子宮を離れる時から、様々な形の代用保護物 すなわち殻である人工子宮を作り、維持し、引きこもる方向にことごとくの努力を傾ける。

これらの人工子宮の目的は、活動の安定にも不安定にも対処する環境を確保する事、成長と成熟の時期にはシェルターとなり、老後には自由を保証し、外からの攻撃に身を守る防御物を確保する事にある。

このことは、一般大衆でもエリートでも変りない真実である。だが、問題解決策の求め方には決定的な差異がある。

<人工子宮>

・どうしても無い大衆に対する有効な戦略兵器が福祉国家である

何故、市民個人が政治という機構を作り出すかという根本的な理由は、子ども時代に頼りにした関係を永續させたいという、潜在的な意志あるいは欲望に根ざしている。

率直に言えば、彼らは、彼らの生活から全ての危険を取り除き、頭をなで、傷口にキスをしてくれ、どのディナーテーブルにも雛鳥をつけ、体を洗ってくれ、夜になればベッドに押し込んでくれ、何ごとも明日の朝、目が覚めれば全て良くなっているだろうと言ってくれる神人が欲しいのである。

……こういう大衆の行動は、恐怖、怠惰、利己主義の軍門に降っている事を意味する。

そういうどうしても無い大衆に対する有効な戦略兵器となるのが、彼らが主成分になっている福祉国家である。

<国の政治機構・依存物>

・偽善者であればある程、政府の腐敗墮落を訴える

多くの人は、自分の日常生活をわずらわす他人を、出来る事なら抑えこみたいか、殺したいか、或はその両方だが、自分が起こした明白な行為で、道徳上或は宗教上の問題を争わされなければならぬのはごめんだと思っている。

それ故、彼らは、自分達の手を血で汚さない様にする為、(自分の子供達も含めて)他人に汚い仕事をやらせる。

彼らは、動物に対する人間の扱いが悪いと言ってわめき散らしながら、自分の視野には入らない下町の漆喰の屠殺場から来るハンバーガーの前に涎をこぼして座る。

だが、偽善者であればあるほど、世間では政治家と呼ばれている殺し屋の専門団体に財政援助の税金を払い、政府の腐敗墮落を訴える。

<行動／攻撃>

・政治家とは一般大衆の分別に目潰しを喰わせる為に雇われた殺し屋である

インフレによって膨大な量の金が一般大衆の手に渡り、彼らの貪欲さのバランスを維持し、彼らの中に虚構の自己満足を作り出す。

..しばし、狼は戸口の外で待っている。

万一の場合、収支のバランスをとるために、戦争という手段に訴えなければならない。

極言すれば、戦争は債権者を破滅させる手段に過ぎず、政治家とはとるべき責任をとらなかつた行為を正当化し、一般大衆の分別に目潰しを喰わせる為に公然と雇われた殺し屋である。

＜時間の流れと自己破壊振動＞

・人々は権威を求めるが責任は引き受けようとはしない

多くの人々は自由に物事(冒険その他)をやりたいとは思いますが、失敗を恐れる。

失敗の恐れは、成功の見込みが薄いとかが、人が信じる気のない創作された嘘(法律)を通過させるとかの場合は、他人に責任を押しつけるとかの無責任さに現われる。

彼らは権威を求める(権威 authority の語源は「創作者 author」である)が、責任や虚偽は引き受けようとはしない。

そこで、彼らは、彼らに代って現実直面してくれる政治家を雇う。

＜責任＞

・人々は自分達が次の事を出来る様に政治家を雇う

人々は自分達が次の事を出来る様に、政治家を雇う。

- 1) 体を使う事無しに安全を手に入れる。
- 2) 頭を使う事無しに行動を手に入れる。
- 3) 生か死かをじっくり考える事無しに、他人から盗み、傷つけ、死に至らしめる。
- 4) 全くその気のない責任はとらない。
- 5) これらの局面に立たされる訓練を受ける事無しに現実や知識という利益を手に入れる。

＜＜ 総括 ＞＞

・徴兵の目的は脅迫によって政府は万能であるという確信を教え込む事にある

徴兵或は他の類似の制度のそもそもの目的は、脅迫によって、社会の若い男性 に政府は万能であるという、いわれなき確信を教えこむ事にある。

彼はまもなく、祈りが時間をかけてやっていたことを、一発の弾丸が一瞬の内にドンデン返しにしてしまう事を教わる。＜徴兵＞

・徴兵については次の様に定義出来る

【徴兵】(志願兵など)は、中年と老年が若年を公共の汚れた仕事に強制的に就かせる目的をもって考案された、強制的集団犠牲と奴隷の制度である。

それは若者を年長者と同じ様に有罪とし、若者による年長者批判を極力抑えつける作用を果たす(世代安定剤)。

それは、「愛国的・国民的」サービスというラベルを貼られ、公にマーケットに出され販売される。

<徴兵>

・徴兵の成功には脅迫が本質的に重要である

徴兵の成功には、他の人間社会機構の様に、あれこれの形の脅迫(または刺激)が本質的に重要である。

物理学の作用反作用の原理は、内的なサブ・システムにも 外的なサブ・システムにも適用されなければならない。

徴兵にあたって、確実に個々人を洗脳しプログラムに組み込むには、家族と同僚グループの双方共を巻き込んで統制下に置かれなければならない。

<実施のファクター>

・広告メディアは父になるべき男が尻に敷かれる存在になるように膳立てする

家族持ちの男を、確実に息子に正しい社会訓練と態度を身に着けさせて成長させる様に躡なければならない。

広告メディア等は、父になるべき男が結婚する以前、少なくとも結婚するまでには、尻に敷かれる存在になる様に膳立てする事にかかりきっている。

彼は教えられる、自分は自分用に打ち込まれた社会のクサビに順応するか、性生活の両脚を縛り付けられるかである事を、そして、優しい仲間付き合いはゼロになる事を。

彼は見させられる、女たちは論理的、原則的で尊敬に値する行動よりも安定を要求するものだという事を。

息子が戦争に行く時まで、父親(骨抜きにされてクラゲのようになっている)は、自分の同僚たちに非難の目を向けられない内に、また、彼個人の意見や自尊心の殻を破って偽善者とならない内に、息子の手に銃を渡すだろう。

息子は戦争に行くか、父親が当惑するか。

それでも息子は戦争に行くだろう、戦争の真の目的が何処にあるのかを知らずに。

<実施のファクター>

・順応性を植えつけるには育児センターを運営しなければならない

この様な順応性を達成する為には、下層階級の家族を両親の共働きが増える過程で分解し、面倒を見る人間が居ない孤児達を、政府機関が日常的に世話するセンターを運営しなければならない。

<エネルギー>

・洗脳教育は早いうちから行うほど良い

生まれたての子共を持つ女は、幸福で目が輝きすぎて、富者の大砲の材料も奴隷労働の安価な源泉も見分けがつかない。

しかしながら、女は、遅かれ早かれやってくる「現実」の変移を受け入れる事に慣らされなければならない。

その変移にはどうにも処し切れなくなる程、家族という単位をとことん破壊しなければならず、国家は公教育をコントロールし、国営の保育センターをさらに増設し、父母が子供を早い時期からそこへ「派遣」させるよう義務付けなければならない。

洗脳教育は早い内から行うほど、子供達の変移の速度を(強制的に)上げる事が出来るのである。

<実施のファクター>

5)陽動作戦

・混乱あれば利益あり、さらなる混乱あればさらなる利益あり

一般原則は、混乱あれば利益あり、である。

さらなる混乱あれば、さらなる利益あり、である。

それ故、最上のアプローチは問題を作り出し、その解決を示す事である。

〈陽動作戦・基礎戦略〉

・一般大衆に経済学と他のエネルギー科学との関係を学ばせてはならない

このような[世界経済を管理する]王者となるべく、我々は少なくとも一つの目標は達成しなければならない。

すなわち、一般大衆に、経済学と他のエネルギー科学との論理的・数学的な関係或はその知識を適用する事を学ばせ無き事である。

〈要約〉

・先進的に見える不必要な経済学書を氾濫させる

経済理論上の問題は極めて容易にエレクトロニクス上の問題に置き換えて処理し、その結果を経済に戻す事が出来たので、最終的には、必要な経済用語を翻訳する手引き書が一冊あればいいというだけとなった。

その他の事は、数学とエレクトロニクスの通常の研究から得る事が出来た。

この事は、先進的に見える不必要な経済学書を氾濫させ、プロジェクトの機密を守る事を容易にさせる。

〈経済的モデル〉

・実際には少しも重要で無い事に大衆の気をそらせる

新種の個人的プログラマ／経済人が、一九四八年にハーバード大学が始めた作業の結果に気づくのは時間の問題である。

彼らが気づいた事について一般大衆とコミュニケーション出来る速さは、ひとえに、我々が如何に効果的にメディアをコントロールし、教育を破壊し、実際には少しも重要でない事に大衆の気をそらせるかにかかっている。

〈要約〉

・機密を保護する単純な方法は大衆を重要でないことに引きつけておくことである

沈黙の兵器の機密を保護し、大衆コントロールを勝ち取る最も単純な方法は、一方で大衆には基礎的なシステム原則を知らしめない様にし、他方で大衆を混乱させ、無秩序にさせ、本当は少しも重要で無い事に引きつけ続けておくべきだという事は、経験にてらして証明されてきた。この事は、次の事によって達成される。すなわち・

(1)公共教育では、数学、論理学、システム設計ならびに 経済学などは程度の低いプログラムを植えつけ、技術的創造を妨げる事によって、彼らの精神を武装解除させ、精神的行動をサボタージュさせる。

(2)次の事によって、彼らの感情を解放してやり、彼らの我がまま勝手と、感情的・肉体的な活動の中に放縦さを増してやる。

1 メディア・特にテレビと新聞・を通じて、セックス、暴力と戦争を集中砲 火で浴びせ続け、毅然と立ち向う感情を軟化させる(心的・感情的にレイプする)。

2 彼らが欲するものを与えて・過剰に・思考に「カロリーが高いがまずい食品」・彼らが真に必要なとするものを奪いとる。

3 歴史や法律を書き換え、大衆を変質者が作り出したものの虜にさせる。この様にしてこそ、彼らの目や心を、その人間にとって必要な事よりも、自分とは無関係なでっち上げた物事へ逸らせる事が出来る。

<陽動作戦・基礎戦略>

・陽動作戦を要約すれば…

・メディア⇒ 成人大衆の関心を真の社会問題から逸らさせ、少しも重要で無い事に縛りつけ続けよ。

・学校⇒ 青年大衆には、真の数学、真の経済学、真の法律ならびに真の歴史については無知のままにさせ続けよ。

・娯楽⇒ 大衆娯楽は小学校六年の水準以下に留め続けよ。

・労働⇒ 大衆を、考える時間も無い程、忙しく、忙しく、ひたすら忙しくさせ続けよ。

他の動物共々に農場に戻れ、である。

<陽動作戦の要約>

6)破壊と支配

・暴力とテロリズムは最良の支配方法である

悪い本能をもった人間の数は、善い人間の数を遙かにしのぐ。
……彼らを統治するには、学者風情の論議によってでは無く、暴力とテロリズムによって達成する事が、最良の方法である。

<一>

・全土に騒乱と混乱と敵愾心を起こさなければならない

ヨーロッパ全土、また、ヨーロッパとの関係を通じて他の大陸にも、我々は騒乱と混乱と敵愾心を起こさなければならない。

そのことは、我々にとっては二重の利益がある。

<七>

・我々から生れるものは全てを巻き込み行く恐怖である

我々から生れるもの、それは全てを巻き込み行く恐怖である。
帝政復興主義者、煽動家、社会主義者、共産主義者、あらゆる種類のユートピア夢想家といったあらゆる意見、あらゆる主義の人物達が我々の用を勤めている。
我々は彼らを利用して、あらゆる労役を課している。
彼らの一人一人が、権威の最後の残党まで叩き潰さんが為に、現在秩序を転覆させる事に燃え上がっている。
これらの行動により、全世界の国々が拷問を受けている。
各国政府はもう止めてくれと手すり足すりし、平和の為ならどんな事でも代償に出すからという気になっている。
だが、我々は、彼らが心底から我々に服従し、率直に我々の国際的超政権を受け入れるまでは、平和を与える訳には行かない。

<九>

・我々はゴイムから生命を奪う事に関心を寄せている

我々は、労働者に我が戦列(社会主義者、無政府主義者、共産主義者)に加わる様提案し、振りかかる圧迫から彼らを救出する救世主を買って出る。
我々は、我々がメーソン員が言われなく唱えた(人類団結という)兄弟の定め通りに、一貫して主義者達を支援している。
貴族は、法律によって労働者が提供する労働の恩恵を受け、労働者達がよく食べ、健康で、強壮であるかどうかに関心を払っていた。
我々は全く反対の事(劣化、ゴイムから生命を奪う事)に関心を寄せている。

<三>

・我々は仮面を着けている

ゴイムに真相を悟られない様にする為に、我々は仮面を着けて、我々の経済学説が精力的に宣伝する偉大な政治経済原理の下、如何にも労働者階級に役立つかの様に情熱を傾けて説き伏せるだろう。

<六>

・何時の時代でも人民は言論と行動とを混同してきた

何時の時代でも世間の人民は、個人も同様であるが、言論と行動とを混同してきた。競技場で見事な事に満足しているが、約束された事が実行されているかどうかを考えてみようとする者は滅多に居なくて、専らショーを見るだけで満足している。そこで我々は、人民の利益が進歩に向っていると声高く証明するショー団体を作るだろう。

<五>

・人民は“反対”というものを喜ぶ

愚にもつかぬものではあっても反対とか批判とかは在り得るし、うわべの事にしか理性の力が働かない人民は、反対という事を喜ぶものである。

かかる場合に、健全で論理的な精神が、道理の通った助言や議論の助けを借りて上手く大衆を導く希望をもてるのだろうか？

専ら浅はかな情熱、つまらない信念、習慣、伝統、感傷的な理論だけに囚われている間違いだらけの人々は党派根性に囚われる。そうになると、完全に理の通った議論を基にしたどんな合意をも妨げる。

<一>

・群衆や個人を支配する技術は我々にある

巧妙に仕組まれた学説と詭弁により、社会生活の制約やその他ありとあらゆる方便により、或は、ゴイムにはまるで解らない手段を動員して群衆や個人を支配する技術は、他の技術と相並んで我々が支配の中核である専門家が元々手中にしていた物である。

分析、観察、精緻な計算に育てられ、この種の熟練技術に関しては我々には肩を並べる者が居ない事、練り上げられた政治行動と固い結束のどちらかでは我々の競争相手が居ないのと同じである。

居ると言えば、イエズス会だけは我々と比べられるだろうが、我々は無分別な群衆の目には見える組織として存在するとは信じられないように工夫してきた。

その裏で我々は終始一貫秘密の組織を維持し続けてきた。

<五>

・程無く混乱と破綻があまねく広がるであろう

権力を追い求める者達を煽動して権力を誤用させる為、我々は、全ての勢力を相対立させ、独立を得ようとする自由主義傾向を鼓吹する様に仕向けてきた。

この目的に向って、我々はどんな形の企てでも指嚆教唆し、あらゆる政党に戦闘準備させ、どんな野望の目的をも権威に対して向ける様にさせた。

国家というものを、我々は混乱した問題の大群が争乱する競技場と化せしめたのである……ほどなく、混乱と破綻があまねく広がるであろう。

<三>

・秩序破壊の跡にイスラエル王が王座に就く

“神に選ばれた者”は、理性ならぬ本能によって、また人間性ならぬ獣性によって動くばかりた力を粉碎すべく天から下される。

この力は今は自由の原理という仮面をつけて略奪とあらゆる種類の暴力を働き凱歌を挙げているが、この力が秩序破壊の跡にイスラエル王を王座に据えるのである。

だが、彼らの役割は王が王国に入ったその瞬間に終る。

王国の路からは、その残骸の一片すらも残さ無い様に一掃される必要がある。

<二十三>

・宗教的・人種的憎悪によって対立反目応報を繰り返させる

我々は、ゴイムを宗教的・人種的憎悪によって個人も国民も対立反目応報を繰り返す様に仕組んだ。

この事を過去二千年に渡って営々と積み重ねてきたので、手が付けられない程激しいものになっている。

これが、我らに腕を振り上げたとしても、支持してくれる国は何処にもただの一国もない理由である。

我々に対抗する同盟を結べば自分が不利になる事を、どの国も肝に銘じているからである。

<五>

・自分が何処に居るのか見当がとれない有様にさせる事が秘訣である

統治に成功するのに必要な第二の秘訣は……

広い範囲に渡り国民の欠点、習慣、情欲、市民生活の状態を増殖させ混沌に陥れ、その中にある自分は自分が何処に居るのか見当がとれない有様にさせると、その結果、人民相互の理解が出来なくなる。

これこそ別の意味で我らにとっては有利な事となる。

すなわち、諸党派の中に軋轢の種子を蒔き、まだ我々に従わおうとしない集団を攪乱し、どの程度のものであれ、我々の仕事を妨害する様な個人の企てに対して片っ端から氣勢をそぐ事になるのである。

<五>

・個人の企てはまたとなく危険である

個人の企て程、またとなく危険なものはない。

その裏に天才があろうものなら、この様な企ては、我々が軋轢の種子を蒔いた人民何百万人にも勝る力を持つのである。

<五>

・非難によって大衆を意気阻喪させよ

我々の役員会が採択している原理に次の事がある。

非難によって大衆を意気阻喪させること、抵抗心をかき立てる真面目な思考をさせない様にする事、心の力を空理空論の論争に逸らせる事。

<五>

・創意は直ちに摘み取れ

我々はゴイム社会の教育を指導する際には、彼らが何か創意を示す兆候があれば、何時でも気力を失って絶望してしまう様に仕向けなければならない。

自由奔放な活動というものは、別の自由奔放さに出会うと無力になる傾向がある。

衝突すると、容易ならぬ精神的打撃、失望、意気消沈が起こる。

これらありとあらゆる手段を 駆使して、我々はゴイムを疲労困憊させたあげく、国境を越えた現実の力を我々に提供せざるを得なくするだろう。

<五>

・我らの手中にある武器は、貧欲、復讐、憎悪と果てし無き野望である

然るべき時に、我々は法律を作り、裁判と宣告を行う。

我々は生殺与奪を実行する。

我々は全軍の先頭にあつて、指導者の軍馬に跨る。

我々は 意志の力で支配する。

何故ならば、かつて権力を握っていた党派の残党も、今や我々に屈伏し我々の掌中にあるのである。

我らの手中にある武器は、貧欲、容赦なき復讐、憎悪と敵意に燃える、果てし無き野望である。

<九>

・武器は貧困と嫉妬と憎悪である

飢えが引き起こす貧困と嫉妬と憎悪によって、我々は群集を動かし、彼らの手を使って我々が行く手を阻む者全てを掃討するであろう。

全世界王が王冠を戴く時が至れば、同じ方法を用いて障害となるものをことごとく一掃するであろう。

<三>

・人民を武装解除させる事は戦争に赴かせる事よりも重要である

今日では、人民を武装解除させる事は、戦争に赴かせる事よりも重要である。

さらに重要な事は、我々の都合から言えば、人民の焰を抑える事よりも燃え上らせる事である。更に重要な事は、他人の考えを根絶するよりは、その考えを素早く掴み取り我々に都合が良い様に翻案する事である。

<五>

・物欲は独創性を麻痺させる効果がある

我々の勝利を一層容易ならしめた事実がある。

好ましい人物達との関係を保つ事によって、我々は常に人間の心の琴線に触れ、金銭欲に、貪欲に、人間のあくことを知らない物質的欲望に働きかけた。

言うまでもなく、これら人間の弱点の一つ一つには、独創性を麻痺させる効果がある。

この弱点の故に、彼らの行為に金を出してくれる人間に、自分の意志の最終決定を委ねるのである。

<一>

・我々は奢侈に対するあくなき欲望をつのらせるだろう

ゴイムの産業を完全に滅亡させるには、投機の助けを借りて、我々がゴイムの中で盛んにしてきた奢侈、何もかもを呑み込んでしまう奢侈に対するあくなき欲望をつのらせるだろう。

しかしながら、我々は労働者には好都合にならない程度に賃金の上昇を図るだろう。

同時に、農業や家畜飼育が駄目になったから上がるのだという理由を付けて、生活必需品の価格を上げるだろう。

我々はさらに進んで、労働者を混乱浸し酒漬けにし、それに加えるに、ゴイムの頭の良い者達を全てこの世から根絶すべくあらゆる処置を講じ、生産の根源力を巧みに深く蝕むだろう。

<六>

・ゴイムの若者達をこうやって墮落させた

我々は、ゴイムの若者達に、我々には嘘と解っている主義や学説を注入する事によって、彼らを翻弄し困惑させ墮落させてきた。

<九>

・他人よりも優位に立とうとする闘争は……

他人よりも優位に立とうとする激烈な闘争と、経済生活に加えられた打撃とは、薄情冷酷極まりない社会を生み出すだろう……

社会は、政治・宗教など高度なものに対する反発を強めるだろう。

<四>

・自分個人が第一という考えを全員に植え込む

自分個人が第一という考えを全員に植え込む事によって、ゴイムの家族主義や家庭教育尊重心を粉碎し、癖のある考え方の人間は引き離して一掃してしまう。

<十>

・思考力を人間から切り離す事は極めて有益な手段である

思考力を人間から切り離すという事は、過去長い時間をかけて、我々が導入してきた極めて有益な手段である。

思考力を抑制する手段は既に、いわゆる実物教育[百貨店は万国博におけるデモンストレーションを指す]という方法で実行されている。

この方法によりゴイムは、目に見えるものだけを頼りにして理解し、物を考えない従順な動物にさせられている……

フランスでは、我々の最良の代理人であるブルジョアジー諸氏が、既に実物教育の新しい計画を実地に移している。

<十六>

・ゴイムの心から神の摂理と靈魂なるものを引き離す

我々は信仰という信仰を蝕み、ゴイムの心から神の摂理と靈魂なるものを引き離し、代わりに損得勘定と物欲を入れる事が絶対不可欠なのである。

<四>

・キリスト教が完全に破壊されるのはここ数年の内に過ぎなくなった

今や日一日と、世界の人民に対する彼ら[ゴイム僧侶]の影響力は低下しつつある。

信教の自由という事が至る所で喧伝されたので、今やキリスト教が完全に破壊されるのはここ数年の内に過ぎなくなった。

他の宗教に至っては、骨抜きにするのは更に容易であるが、今、この問題を論ずるのは時期尚早であると思う。

我々は 聖職者重視の教権主義や聖職者達の力を、以前、彼らが華やかなりし頃に持っていたのとは比べものにならない程 狭い枠に押し込めるであろう。

<十七>

・我々は法王庁の擁護者を装って進み出る

決定的に法王庁を破壊する時が来れば、見えざる手の指が各国民に法王庁を指差すであろう。

しかしながら、国民がそれに襲いかかろうとしたら、あたかも過度の流血を防がんとするかの様に、我々は法王庁の擁護者を装って進み出る。

この転換 によって、我々は彼らの深奥にまで足を踏み入れ、間違いなく、かの最強部を腐食し切るまでは二度と出て来ないであろう。

<十七>

・我々の王国では我らの宗教以外如何なる宗教の存在も許さない

我々が王国を築く時は、我らの唯一神宗教以外、如何なる宗教の存在も許さない。

我々の運命は選民としての我々の地位によりその唯一神と結びつき、その我々の運命は神を通じて世界の運命と結び付いているのである。

故に、我々以外のあらゆる形態の宗教を一掃する。

<十四>

7)自由・平等・進歩・権利

・「自由・平等・友愛」を叫んだ最初の人間は我々であった

遙か以前の時代にさかのぼれば、我々は人民群集の中であって「自由・平等・友愛」という言葉を叫んだ最初の人間であった。

以来、幾度となく愚かなオウム達が四方八方からこの餌に群がり集まり、世界の福利と、以前は群集の圧力に対してよく保護されていた個々人の真の自由を、この餌をもって破碎し去った。

<—>

・「自由・平等・友愛」が我々の勝利を助けてくれた

地球の至る所で、我らの盲目の代理人達のお蔭で、「自由・平等・友愛」という言葉が、我らの旗を熱狂的にかざす大群を、我々の隊列に引き入れてくれた。

これらの言葉はまた常に、ゴイムの福利に穴をあけ、至る所で平和、安寧、協同に終止符を打ち、ゴイムの国家の基礎を破壊する生きたエダシャクトリ[果樹の害虫]であった……

この事が我々の勝利を助けた。

<—>

・ゴイム知識人は「自由・平等」からは何も作り出せなかった

ゴイムの内の賢者になりたがり屋ども、知識人達は、元々中味の無いこれらの言葉[自由・平等・友愛]から何も作り出す事が出来なかった……

何処をどう見ても平等は無く、自由などありえず、自然そのものはその掟に従わせる様に作られているのと全く同じく、気質、性格、能力が不平等に作られている事を見なかった。<—>

・「自由」なる言葉は神や自然の掟に対してまで闘争させる

「自由」なる言葉は、様々な人間集団に、あらゆる種類の権力、あらゆる種類の権威、更には神や自然の掟に対してまで闘争する事に入らせた。

この為、我々が我らの王国を実現した暁には、群集を血に飢えた獣に改造する暴力的概念であるこの言葉を、我々は、目に触れる辞書からは抹殺するであろう。

獣達は血をたらふく呑んで腹がふくれると眠り込むので、鎖に繋ぐのはいとも容易いというのは事実である。

だが、血を呑まさなければ彼らは眠らず、引き続き闘争を続けるであろう。

・人民を無秩序な群集に一変させるには自由を与えるだけで十分である

自由思想は誰一人として程よい使い方を知らない。

故に、実現不可能である。

人民を無秩序な群集に一変させるには、彼らに一定期間自治を与えるだけで十分である。

与えた瞬間から、共食い闘争が勃発し階級間戦争に発展し、その真っ只中で国家は焔に包まれて炎上し、彼らの権威は一山の灰燼に帰するであろう。

<一>

・アナキーは野蛮の最高の段階である

群集は野蛮人であり、ことごとくの機会にその野蛮さを発揮する。

群集は自由を手にした途端にいち早くアナキーに転ずる。

アナキーそれ自体は野蛮の最高の段階である。

<一>

・自由や平等は人間の本性にある破壊的な原理である

[我らの王国を築いた暁には]我々は明白にする。

自由とは放縦では無い事を、人間の品位とか力とかには自堕落が含まれていない以上に自由とは抑制の利かない権利は含まない事を、良心の自由や平等その他これに類するものは人間の本性にある破壊的な原理である事を万人に公表し、個人の自由とは決して無秩序な群集の前で言語同断な言説を弄して煽動する事では無い事を。

真実の自由とは、社会の法律には敬虔に厳しく従う人の不可侵性にあること、人間の尊厳とは権利意識に包まれてはいるが、同時にいかなる権利意識も持たぬものであること、そして自分勝手な空想を実現しようとする事は決して許されない事を。

<二十二>

・自由の権利は人間性に拷問をかける

我々は最もはっきりとした口調で、ゴイム政府が犯した過ちを描いてみせるであろう。

我々が彼らに対する嫌悪の情をそそのるので、人民は、かの自由を振り回す権利などよりも、農奴制の様な状態でよいから安穩の方を好む。

自由の権利は、人間性に拷問をかけ、正に人間存在の根源を疲弊させ、人民は自分が何をしているのか解っていない一群のこすからい山師たちの餌食となったのである。

<十四>

・飲酒や性的墮落は我々が手解きしたものである

飲酒で馬鹿になりアルコール漬けになった動物共を見よ。
自由が彼らに節度無き飲酒の権利をもたらしたのである。
それは我々や我々一族の歩む道では無い。
ゴイムらはアルコール飲料に酔いしれ、彼らの若者達は因習陋習と、ごく若いうちから性的墮落に痴呆状態となって 成長する。
その性的墮落は、我々の特別な代理人・・富豪の邸宅の家庭教師、下男、女性家庭教師によって、書記 その他によって、しばしばゴイムの娯楽場にいる我らの女性達によって手解きされた。
彼ら代理人の最後に、私は、頹廢と奢侈に他の者たちを引き込む尖兵である、所謂「社交界の貴婦人たち」も入れておく。

<一>

・権力に対する悪口雑言は全ての制度を転覆させる最後の一太刀となる

後から後から出てくるお喋り屋達が、議場と行政会議の場を討論会場に変えてしまった。
向う見ずなジャーナリストと破廉恥なパンフレット屋が毎日の様に政府当局を攻撃する。
権力に対する悪口雑言は全ての制度を転覆させる最後の一太刀となり、ことごとくが狂乱した群集の滅多打ちに会って空中に吹き飛ばされるであろう。

<三>

・自由思想の使い方を知らなければならない

政治的自由は単なる思想であっていささかも事実では無い。が、政権を持っている党派を粉碎すべく、この思想を餌として人民大衆を自陣に引きつける必要があれば、その撒き方や使い方を知らないといけない。
その際、相手方が自由思想、所謂リベラリズムに感染していれば、そして、思想の為になら喜んで全力を投げうつつもりがあるならば、仕事は更にやり易くなる。

<一>

・我々の政府が承認されると自由主義者や空想論者の役割は終る

我々の政府が承認されると、自由主義者、空想論者の役割は最終的に終る。
その時まで、彼らはたっぷりと我々に奉仕し続けてくれる。
その為に、我々は彼らの頭をあらゆる種類の空疎な内容の空想的理論、今では進歩的と呼ばれる理論の方に引っ張り続けている。

<十三>

・「自由、平等、友愛」は我々の王国では標語としては使わせない

リベラルな言葉、我々がメーソンの標語として効果の高い「自由、平等、友愛」は、我々の王国が到来した暁には、もはや標語としては使わず、「自由の権利、平等の義務、友愛の理想」という風に単なる理想主義を表現したものに変わる。

これが我々のやり方…牛は角を捕えよ…なのである。

<九>

・“自由”とは法律で許された事をする権利である

“自由”という言葉には、色々な解釈があるが、我々は次の様に定義する。

…自由とは法律で許された事をする権利である。

この定義は通常は我々だけに役立つ定義である。

何故ならば、法律というものが前に述べた計画に従って、我々が思いのままに作ったり廃止したり出来るものであるから、およそ自由と名の付くものは全て我々の手中にある。

<十二>

・平等思想が一番下の思想であることは動かない

平等思想は自然法則にもとるものであって、

平等思想が一番下の思想である事は動かない所なのである。

・進歩思想は限度というものを弁えなかった

進歩思想は、あらゆる種類の解放運動を激励してきたが、限度という事を弁え無かったのである……

所謂、自由主義者は、実際はともかくとしても思想に関しては、例外なく無政府主義者である。

自由主義者のどの一人も自由のお化けを追い求め、まっしぐらに放縦に、即ち、反対の為の反対という無政府主義に陥っている。

<十二>

・人々は階級と身分に分かれなければならない

人々は階級と身分に分かれなければならない……

人間活動の実際には様々な差異があつて、平等などというものはありえず、何等かの行為で階級全体に累を及ぼす者と、自分自身の名誉を傷付けるだけの者とは、法律の前では平等の責任を負う筈がないという事は、万人が心得ておくことが肝要である。

<三>

・真理は一つであり、そこには“進歩”が入り込む余地は無い

我々はゴイムの空っぽ頭を進歩転換させる事に成功した事は無かった。

ゴイムの中には、物質的発明の問題では無い所で進歩を追い求めた所で真理からは遠ざかるばかりだという事が判る人間は居ないのである。

何故なら、真理は一つであり、そこには進歩が入り込む余地は無いのである。

進歩、それは誤った推論に基く思想の様なものであり、神の選民であり、真理の保管人である我々の外には何人も知らない真理を覆い隠すのに役立つ。

<十三>

・権利には何ら具体性は無い

我々の権利は力の中に横たわる。

“権利”なる言葉は抽象的な思考であって、何ら具体性は無い。

その言葉は次の事を意味するに過ぎない

…我が欲するものを我に与えよ。

我が汝らよりも強きことを証せんが為に。

権利は何処から始まるか？ どこで権利は終るか？

権威の仕組みが薄弱で法律が空疎であり、リベラリズムの乱用により権利を乱発し支配者達が脆弱となった国家ならどんな国でも、私は新たなる権利を行使出来る…

強者の権利によって打撃を与え、既存の秩序と法規の一切を粉碎し、全ての機構を再構築し、リベラリズムの中で放棄されて我々に残された彼らの権威ある権利を継ぐ王者となる。

<一>

・憲法に書き込んだ大衆に関する権利は虚構である

全ての人民は、奴隷や農奴として縛り付けられていたかつての時代よりも厳しく、貧困になるが故に重い労働の鎖に繋がれている。

何とかして彼らはこの束縛から逃れようとするかも知れないが、この重荷を取り除くことは出来ず、決して貧困からは脱却できない。

我々が憲法に書き込んだ大衆に関する権利というようなものは、虚構であって実際に使える権利などでは無い。

所謂、「人民の権利」なるものは、単なる観念、実際生活では決して実現される筈の無い観念としてのみ存在する事が出来る。

<三>

・信仰心を奪い権利思想を植えつける

人民が王は神の意志を純粹に體現した者だと見ていた時代には、何の不平不満も鳴らさずに王の専制権力に従った。

だが、人民には権利というものがあるという考えを我々が彼らの心に植えつけてからは、彼らは王座に座る者を単に普通の人間とみなし始めた。

“神権による王”の聖油は人民が見ている前で王達の額から消え失せてしまい、我々が人民から信仰心を奪った時に、権力の強力な力は飛び散って公共の所有権となり、我々がそれを押収したのである。

<五>

8)ゴイム【非ユダヤ人】

・“科学が説くところでは、”をゴイムに信じ込ませておこう

彼ら[ゴイム]には、我々が“科学が説くところでは、”（学説）と吹き込んだ事を後生大事にいつまでも守らせておこうではないか。

我々が一貫して、新聞を通じて、声を大にしてそれらの学説を盲信させているのは、そのことが目的である。

ゴイムの知識人達は彼らの知識にいい気になり、論理的検証を行なう事無く科学から得た知識全てを信じこむだろう。

その知識たるや、我らの代理人団たる専門家が、ゴイムの心魂を手なづけて我々が望む方向におもむかせんが為に、巧みに断片を寄せ集めたものなのである。

<二>

・我々はダーウィン主義、マルクス主義、ニーチェ主義を仕掛けた

ここに述べたことは根も葉も無い事であるとは、瞬時たりとも考えないで頂きたい。

我々が仕掛けたダーウィン主義、マルクス主義、ニーチェ主義が、如何に功を奏しているかに注目して頂きたい。

我らユダヤ人にとっては、少なくとも、これらの指導者たちがゴイムの心魂に及ぼした事共を直視すれば、事は明白である筈である。

<二>

・ゴイムは偏見なく歴史的観察を実際に適用する事がない

諸氏もご存知のように、これら我らの専門家達は、歴史の教訓や一瞬一瞬の現実の出来事の観察から、我らの政治計画に必要とする知識を体得しているのである。

ゴイムは偏見なく歴史的観察を実際に適用する事無く、一連の結果に厳しい批判を加える事無く空理空論に走る。

故に、我々は彼らに一顧も与える必要も無い・・・

時が一撃を喰らわせるまで楽しませてやろうではないか。

過去の栄光に新しい形を与える希望に生きさせてやろうではないか。

古き良き思い出に浸らせてやろうではないか。

<二>

・ゴイムが明きめくらだから我々の成果が約束されている

こんなにも我々が彼らを明きめくらにさせられるというのは、ゴイムの頭が我々と比較してお粗末である証拠、それも明々白々の証拠では無いだろうか。

我々の成果が約束されているのは、主にこの為である。

<十五>

・ゴイムの底無しが無気力さが我々の今日をあらしめた

今日我々は多国家にまたがる勢力として無敵である……

ゴイム人民の底無し、無気力さ、権力の前には腹這いになって這いつくばるが弱者には無慈悲、他人の過失には厳しく罪悪には寛容、自由社会制度の矛盾は認めようとしなが思い切った専制者の強圧に対しては殉教者のように耐える…

我々の今日をあらしめたのは、[ゴイムの]それらの特徴に助けられたところが多い。

・ゴイムの生き甲斐は金を集めることである

彼らの生きがいは唯一、利益、即ち金を集めることである。

彼らは金があれば手に入る物質的喜びを求めて、紛れもなく拝金教徒と化すだろう。

次いで時至れば、高尚な目的の為でもなく、また、富を得んが為ですら無く、ただただ特権ゴイム憎しのために、ゴイムの下層階級は権力を巡る我々の競争相手、ゴイムの知識人たちに逆らって我々の指導に従うであろう。

<四>

・ゴイムはやたらと自説に固執し自説の一時的満足にしか頭が回らない

ゴイムは、通常、彼らの考えを実行する際に、やたらと自分の説に固執し、自説の一時的満足にしか頭が回らない。

しかも、その自説たるや、我々が彼らに吹き込んだものであって、本当に自分が考え出したものでは無い事に気が付きもしない。

<十五>

・ゴイムは成功さえ出来れば計画はどうなっても構わないと考えている

際立って我々は計画を実行さえ出来れば成功不成功を問わないのに、際立ってゴイムは成功さえすれば計画はどうなっても構わない。

この様な彼らの心理のお蔭で、我々は大いに易々と思うがままに彼らを操れる。

彼らは見た目には虎だが中味は羊であって、風が通り抜けて行く頭の持主なのである。

<十五>

・我々の大盤振る舞いはゴイムの鼻持ちならぬ自惚れを利用する為である

ゴイムは、物好きからか、或は、大きなパイに一口あずかる手段としてメーソンに入ってくる。中には、実現不可能な根も葉もない夢を実現させる為に、耳よりな情報を仕入れようとして入ってくる者もいる。

彼らは成功と拍手喝采に飢えているが、その成功や拍手喝采こそは、我々が気前よく振る舞ってやっているのである。

我々がそういう大盤振る舞いをするのは、彼らが持っている鼻持ちならぬ 自惚れを利用する為である。

<十五>

・ゴイムに考えたり留意観察したりする暇を与えてはならない

ゴイムに考えたり留意観察したりする暇を与えない為には、彼らの気持を工業 や商業に向き放しにさせなければならない。

そうしてこそ、国民という国民が利益追求に没頭し、その挙げ句に彼らの共同の敵に気をとめなくなるだろう。

<四>

9)力と偽善

・フランス革命を「大革命」と名付けたのは我々であった

フランス革命を想起して頂きたい。

それを「大革命」と名付けたのは我々であった。

その準備が秘密裡に行われた事を、我々は熟知している。

あの革命は全面的に我らの手で遂行した一大事業であったのである。

・国家滅亡の時こそ我らの出番である

国家が内乱によって消耗するか、内部不一致のために外敵の手中に落ちるかでは・ ・
どのみち、その国は回復できず滅亡するほかはない。

その時こそ、我らの出番である。

完全に我々の手中にある資本の専制力が、その国に救いの藁を差しのべると、否応なく彼らはそれに縋りつかなければならない。

拒めば・ ・底に沈むのである。

<一>

・我々の到達目標

軍事力増大と警察力強化・ ・

この二つを欠いては、前述の計画を完成させる事は 全く出来ない。

我々の到達目標は、我々を除いては、世界の全ての国家に は、プロレタリアート群集と我々の利益に奉仕する少数の百万長者と、警察官と 兵隊達だけが居ればよろしい。

<七>

・我々はあと数歩で目標に到達せんとしている

今日、我々はあと数歩で目標に到達せんとしていると言ってよい。

横切るべき 空間はあと僅かを残すのみであり、我々が歩んできた長い道のりは、今、正に 象徴の蛇の輪を閉じようとしている。

その蛇は、わが民を象徴している。

この輪が閉じられるとき、ヨーロッパの全ての国家は強力な万力によって締め上げられるのである。

<三>

・我々の合い言葉は力と偽善である

我々の合い言葉は…力と偽善である。

……力のみが政治的諸問題を克服する。

暴力は原則でなければならず、新権力の代理人の足もとに王冠を置こうとしない政府に対しては欺瞞と偽善が鉄則でなければならない。

この悪は終局である善に達する為の手段に過ぎない。

それ故に、我々は、目的達成の為に役立つときは、贈収賄、詐欺、裏切りをためらってはならない。

政治の上では、支配権を握って屈伏させるためならば、躊躇無く他人の財産を奪い取る方法を知っていなければならない。

<—>

・我々の義務としても暴力と偽善による計画を保持する

平和的な征服の道を進んでいる我々の国家は、盲目的な服従を強いる為に恐怖を維持する必要から、目に付かないけれども効果のある死刑宣告をもって戦争の恐怖にとって代える権利をもっている。

仮借ない厳しさだけが、国家の強さを見せつける最大の力である。

単に利益を得る為のみならず我々の義務としても、また、勝利の為にも、我々は暴力と偽善による計画を保持し続けなければならない。

<—>

・報復は厳格な教義である

報復主義は使われる手段と同じく、有無を言わず強力である。

それは手段そのものであるというよりも、我々が勝利し、全ての政府を我らの超政府に跪かせる厳格な教義なのである。

我々は容赦なく不服従というものを根絶する事を、十二分に思い知らせる。

<—>

・善とか道德には拘らない

全ての形態の権力が動揺している現在、我々の権力は、他の如何なる権力にもまして目に見え無いであろう。

いかなる狡猾な者も覆せない強さに到達する 瞬間まで、我々の権力は表面には現われ無いからである。

我々が目下用いざるをえない一時的な悪から、確固たる支配という善が顕現する。

この善は、自由思想 によって形無しにされた国民生活の仕組を平常の状態に修復するだろう。

結果は手段を正当化する。

しかしながら、我々の計画に於いては、必要と有効な事以上には、善とか道德とかには拘らない事に留意しようではないか。

<—>

・道德で統治する支配者は練達の政治家では無い

政治は、道德とは全く関係が無い。

道德で統治する支配者は練達の政治家では無いから、彼の王座は動揺する。

支配したいと思う者は「我々が所有する新聞に感謝する」。

気付かれぬ様に欺瞞と偽善との双方を用いなければならない。

率直とか 正直とかの様な、偉大な国民資質と称されるものは、政治にとっては悪徳である。

それらは支配者を王座から転がり落とすのに効果あるもの、最も強力な敵よりも確実な破壊力を持つ者なのである。

その様な資質は、ゴイムの王国の属性でなければならないが、我々は決して彼らの轍を踏んではならない。

<—>

・盲人が盲人を導けば奈落に落ちこむ

満足すべき行動を練りあげる為には、群集の狡猾さ、だらしなさ、情緒不安定、彼らの理解力の欠如を考慮に入れ、彼ら自身の生活状況、或は彼ら自身の福利を顧慮する必要がある。

群集の力は、盲目的であり、愚かしく、何かからの暗示にかけられるがままに動き、道理をわきまえないということを理解しなければならない。

盲人が盲人を導けば奈落に落ちこむのは必然である。

群集の何人かが天才的な賢者であったとしても成上がり者であり、政治を理解する事は出来ず、指導者として前を進めば全国民を滅亡の淵に落とし込むのは必然である。

<—>

・群集の解決というものは偶然の結果か表向きの多数決によるものである

群衆の解決というのはどれも偶然の結果か、表向きの多数決によるものであり、政治の裏を知らずに管理の中にアナーキーの種子を蒔くという奇妙な解決を出航させる。

<一>

・人民の政治は自滅するのが関の山である

人民が人民に任せれば、即ち人民の中から出た成上りに任せれば、権力と名誉を追う余り、党派間の軋轢とそこから生ずる無秩序状態に自滅するのが関の山である。

人民群集が穏やかに、つまらぬ嫉妬を交えた非難を言いたてずに、個々人の関心をごちゃ混ぜにしている国の諸問題を処理する事が可能だろうか？

外敵に対して自分自身を守ることが可能だろうか？

それは考えられない。

群集の頭数と同じだけバラバラになった計画が、一切の同質性を失って理解を絶し、実行不能となるからである。

<一>

・政治の奥義を授けられた者で無ければ政治は出来ない

群集が盲目である事、支配を頼む為にその中から選挙された成り上がり者は、政治に関しては群集と全く同じく盲人である事、政治の奥義を授けられた者は多少愚かであっても統治が出来るが、反面、大天才であったとしても奥義を授けられない者は政治に関しては無知蒙昧である事を、決して考えようとはしなかった。

これらの事を、ゴイムは一切顧みなかった。

<一>

・絶対的な独裁無しには文明の存在はありえない

全体を適切に国家の幾つかの部分に割り当てるといった風に、大規模かつ明確な諸計画を念入りに練れるのは独裁支配者だけである。

この事から、どんな国でも申し分ない統治形態は、一人の責任ある人間の手に全機能を集中したものであるという明白な結論が得られる。

絶対的な独裁なしには、その人が誰であろうとも、群集によってでは無く彼らを指導する事によって遂行される文明の存在はありえない。

・政治上で成功を収める根本原則は企図を秘匿するにある

政治上で成功を収める根本原則は、企図を秘匿するにある。外交官は言行一致してはならないのである。

<七>

・系図上の貴族に代えるに金力の貴族を樹立した

唯一、人民と国とを守るこの階級[貴族]は、我々に敵対したのである。
ゴイムの血統的な、系図上の貴族階級を滅亡させた所に、我々は、金力の貴族が主導する、我々の教育を受けた階級を貴族として樹立した。
我々はこの貴族政治の特徴を、我々自身のものである富と、我々が学識ある長老たちが備蓄した知識とによって確立した。
<一>

・ゴイムの王と群集の間には防波堤が設けてある

我々にはゴイムの王たちの内の「利口な」勢力がゴイム群集の「盲目的な」力と連合しはしないかという懸念があったが、そのような可能性に対する打つべき手は全て打った。
両者の間でお互いに恐怖の念を抱かせるという防波堤を設けたのである。
この様にしておけば、人民の盲目勢力は相変わらず我々を支持し続け、我々のみが彼らに指導者を与え、勿論、彼らを我々が目指す目標へと引っ張って行くのである。
<九>

・我々の誘導によって人民は貴族階級を全滅させた

我々の誘導によって人民は、貴族階級を全滅させてしまった。人民の福利と密接に結びついた貴族自身の利益の為に、貴族階級は人民の唯一の保護者であり、養い親であった。
現今では、貴族階級の滅亡によって、人民は労働者の首に残酷無慈悲なくびきを繋いだ守銭奴の手中に落ちた。
<三>

・バラバラに分れた党派は我らの掌中に飛び込んでいる

人民は社会主義の問題を国際的協調という手段で解決する必要を感じて遠吠えを挙げている。
バラバラに分れた党派は我らの掌中に飛び込んでいる。
と言うのは、分立抗争すれば金が要るが、金は全て我らの手中にあるからである。
<九>

・新聞は我らの手中に落ちた

今日の国家は、人民の世論を創り出す強力な力をその手に持っている。

即ち、新聞である。

新聞が果たす役割は、必要欠くべからざると考えられる事を指摘し、人民の愚痴にはけ口を与え、不平不満を表明し作り出す事にある。

言論の自由の勝利が具体的になるのは新聞においてである。

だが、ゴイムの国家は、如何にこの力を効果的に使うかについては知っていた試しがなく、新聞は我らの手中に落ちた。

新聞を通じて、我々はその背後にあって、影響力を行使した。

<二>

・新聞は「強国」である。

ゴイムの政府は、既に完成の域に達しつつある。

我々が練り上げた大規模な 計画に沿う様に行動させなければならない。

何によってかと言え、所謂「強国」と称する手段を使い、密かに我々が吹き込んだ世論というものによってである。「強国」…それは新聞である。

その中には、ごく僅か例外はあるが、既に完全に我らの手中にある。

<七>

・新聞界でのメーソンの結束は固い

フランス新聞界のみではあるが、今日でも既にメーソンの連帯行動を物語る形態があり標語も持っている。

全ての新聞機関は、結束して職業上の秘密を守っている。

古代のト占官さながらに、その成員は、過去に解決済みの問題でない限り、情報源を漏らしたりはしない。

ジャーナリストならただの一人もこの秘密を暴露する様な愚挙を犯しはしない。

と言うのは、どの一人をとってみても、兼ねて過去に不行跡な事等をしない限りは、文筆仲間に入れて貰えないからである……

秘密を漏らしたりしようものなら、直ちに過去の不行跡が暴露されるというものである。

秘密が少数の間でだけ知られている限りは、ジャーナリストの権威は大多数の人々に行き渡り…群集は熱狂的に彼に従う。

<十二>

・群集の意見を先導するには

我々の仕組の働きを良くするだけで事足りる

群集の意見を先導するには、我々の仕組の働きを良くするだけで事足りるのであり、我々が彼らに賛同を求めるのは、あれこれの問題についての我々の行動ではなく言説である事に気付かれるであろう。

我々は常に、希望に導かれ確信に基いて全ての事業にあたり、公共の福利に奉仕しているのであると公言している。

<十三>

・法律を文字に拘泥せずに解釈する

現行の法律については、内容的には変える事なく、単にねじ曲げて反対の解釈をすることによって、結果としては大層な成果を挙げた。

その成果は、第一に解釈が法律を覆い隠すという事実、次いで、立法の錯綜した糸から何かを引き出すのは不可能になった為に、政府の目から法が完全に姿を隠すという点は明かに見てとれる。

法律を文字に拘泥せずに解釈するという学説は、ここに起源がある。

<九>

・こんがらがった法律用語を駆使して事態を正当化しなければならない

我々は、常軌を逸していると思われる程、大胆かつ不正な裁定を下さなければならぬ場合の為に、言葉の微妙な綾を探し出し、こんがらがった法律用語を駆使して事態を正当化しなければならない。

そして、この裁定が最も高潔で道徳に適った事を法律用語で言っているのだと思わせる様に、はっきり述べる事が肝要である。

<八>

・重要な問題は明確に言い切ってはならない

権力の分立、言論の自由、新聞、宗教(信仰)、法の前での平等な結社の自由、財産の不可侵性、居住、徴税(脱税の考え方)、法の遡及力……

これ等の問題は全て、直接手を出したり人民の前であからさまにすべきでは無い様な事共である。

どうしても直接触れなければならない際には、明確に言い切ってはならない。

現在の法についての我々の原則的な考えを微に入り細に入り穿って語る事なく、単にざらりと云ってのけるだけに留めなくてはならない。

……原理を明かさなければ、我々は行動の自由を確保しておいて、彼らの注意を惹くことなくあれこれと逸らせるが、一部でも明言してしまうと、たった一言だけで何もかも与えてしまった事になるからである。

<十>

・労働者を資本の権利に従わせるのは飢えである

我々の権力は、労働者の慢性食料不足と肉体的虚弱を必要とする。

正にそうして於いてこそ、彼は我々の意のままに従う様になり、我々に敵対する強さも意志も無くなり、自分達の権威を見つけ出そうとはしなくなる。

王達が正当に貴族に与えた権力よりも、更に確実に労働者を資本の権利に従わせるのが飢えである。

<三>

・憎悪は経済危機の火で倍加される

憎悪は、“経済危機”の効果で数倍もの火の手を挙げるだろう。

経済危機たるや為替取引を中止させ、工業を停止させるだろう。

我々は、自分たちが熟知している 隠密な方法を総動員し、全て我々の手中にある金力の助けを借りて、大規模な経済危機を作り出し、それによって全ヨーロッパ諸国の労働者群集を一斉にまとめて路上に放り出すだろう。

これ等の群集は、ただ単に無知であるが故に、揺籃時代から羨み妬んでいた連中を喜んで血祭りにあげ、連中の財産を略奪出来るだろう。

彼らは“我々のもの”には手をつけない。

何故なら、襲撃の時機を知っているのは我々であり、我々は財産を守る手が打てるからである。

<四>

・投機を産業の基礎にしなければならない

ゴイム社会をきっぱりと崩壊滅亡せんが為には、投機を産業の基礎にしなければならない。

その結果、産業が国土から引き出したものは、いくつかの手を通り抜けて 投機に手渡される、即ち、我々が階級に転り込むであろう。

<四>

・戦争は経済に基礎を置くように仕向けるべきである

我々の目的には戦争は欠くべからざるものである。

が、出来る限り、戦争が領土的な利益をもたらさない様に仕向けるべきである。

そうすれば、戦争は経済に基盤を置く様になり、各国は我々の支配の強力さを思い知らされるであろう。

また、当事国は双方とも我々が国境を越えて放った代理人団の思うがままに操られるだろう。

<二>

・金本位制を採用した国々は危殆に瀕している

御存知の様に、金本位制を採用した国々は危殆に瀕している。
我々が流通している金を出来る限り引き上げるものだから、通貨の必要を満たす事が出来なくなっている。

<二十>

・我々が計画したゴイムの財政制度と原理の改革案は国庫を空にさせる

我々が計画したゴイムの財政制度と原理の改革案は、誰も肝を潰さないように 衣を被せてある……

ゴイ政府の無頓着なやり方のお蔭で、国庫はついに空になる。

ここで国債時代が始まるのだが、国債は国庫以外のものまで呑み込み、かくてゴイ国家全部がご破産となるのである。

先刻御承知であろうが、かくの如き、財政管理法は、我々がゴイムに授けた方法であって、我々がこれを実行する事は出来ない。

<二十>

・国債は支配者の頭の上にぶら下っているダモクレスの剣である

国債はどんな種類であろうとも、国家が脆弱であり国家機能を理解する事すら欠如している証拠である。

国債は支配者の頭の上にぶら下っているダモクレスの剣の様なもので、支配者は国民から税金を取る代わりに、我々の銀行家に掌をさし伸ばして憐れみを乞うようになる。

外債は国家の体に取りついている蛭であって、蛭の方で自然に落ちるか、国家が叩き潰しでもしない限り取れるものではない。

だが、ゴイの国家はこの蛭を払い落とさない。

行き着く先は滅亡というところまで、ますます取りつかせ太らせ、最後は失血して自ら死を招くのである。

<二十>

・彼らの人民は驚くべき程勤勉なのに途方もない財政的混乱に陥った原因

ゴイの支配者達は、かつて我々が助言した通りに、国務を怠って各国代表達との宴会や儀礼、歡樂にふけていた。

彼らは我々の支配が目に見えない様にする衝立に過ぎなかった。

王達に代って寵臣たちが書いた回顧録なるものは、実は我々の代理人が書いたのであるが、そこには決まって将来の経済と繁栄が約束されていたので、皮相的にしか物を考えない人間たちを満足させた……

が、何の経済のことか?どんな新税を?

・我々の回顧録や計画を読めばそういう問いが出てくるはずなのに、誰一人として質問しなかった。

彼らの人民は驚くべき程勤勉なのに、彼らが途方も無い財政的混乱に陥った原因が、そのうかつさにあった事は、諸兄は良く御承知の事と思う。

<二十>

・ゴイム政府が必要とする金は人民から取り立てた方が遙かに簡単であったのに!

ゴイムの頭というのは、思考力の発達していない事にかけては、全く野獣並みで ある事が明々白々ではないか!

彼らは、我々から利子付きの金を借りている[外債]。

その元利を返そうと思えば、国庫から取り出す以外に手はなく、結局また、我々から借りなければならず、どうあっても我々の懐に戻るという事を 考えても見ようとしないのである。

彼らが必要とする金は、人民から取り立てた方 が遙かに簡単であったのに!

<二十>

・リベラリズムを注入すれば国家は敗血症に犯される

もしも国家機構の一部を損傷すれば、国家は病気にかかり、死ぬことになる事は人体と同様である。

我々が国家機関にリベラリズムの毒を注ぎ込んだら、その政 治複合体全体がある変化を起こし、国家が不治の病

・敗血症・に犯され、後は悶絶死という終焉を待つばかりである。

<十>

・憲法は国家の機能を破壊する学校以外の何ものでも無い

リベラリズムは立憲国家を作った。

それはゴイムにとっては唯一の安全装置である専制国家に代わるものであった。

良く御存知の様に、憲法は混乱、誤解、争論、見解の相違、各党派の実りなき煽動等の一切合切の学校……

一言にして言えば、これら何もかもが国家の機能を破壊する学校以外の何ものでも無い。

<十>

・人民の代表は取り替えて良いものだと言うと任命権を我々に預けた事になる

自由という言葉の抽象性の故に、我々は全ての国の群集に、彼らの政府は国の所有者である人民の為の豚小屋の番人に過ぎないのだ。

番人は破れた手袋の様に取り替えていいものなのだと説きつけることが出来た。

人民の代表は取り替えられるものなのだ、という事は、我々が自由に利用出来るということであり、言うなれば、任命権を我々に預けた事になるのである。

<一>

・行政官たちは我々の手の内にある将棋の歩(ふ)である

我々が公衆の中から選んだ行政官達は、奴隷の様に従順な資質であるかどうかを厳しく監視され、支配技術に長けた人物にはさせないだろう。

それ故に、彼らが、全世界の諸問題を律すべく、幼年期より養育された助言者・専門家である学識者と天才の手の内にある将棋の歩(ふ)となるのは容易である。

<二>

・政府の要職には国民との間に溝がある人間を座らせる

しばしの間、もはや政府の要職にユダヤ人兄弟を据えても危険は無いという時期まで、その椅子には別の人間を座らせよう。

ともかく、過去や世評に何かとあり、国民との間に溝がある人間を、である。

その人間が我々の意に従わない場合には処刑し放逐しなければならない・・・

彼らが最後の息を引き取るまで、我々の利益を守らせるために。

<八>

・大統領はゴイ人民の地下に仕掛けられた地雷である

「おしゃべり屋」連中の手助けをする護民官は、他ならぬ新聞である。

新聞屋は支配者に怠慢無能の烙印を押し、よって無益無用であると断罪した。

実にこの為により多くの国々で支配者が退位させられたのである。

その時であった、共和国時代到来の可能性が見えたのは。

その時であった、我々が支配者に代えて政府の似顔絵……

群衆、即ち我らの奴隷、我らの人形達の中から拾い上げた大統領を置き換えたのは。

これはゴイ人民の地下に仕掛けられた地雷であった。

敢えて申し上げるが、ゴイ人民の地下に、である。

<十>

・大統領には過去に古傷のある候補者を選ぶ

我々の計画が然るべき成果を挙げる為には、パナマ汚職事件その他の様な、過去に隠れた古傷を持っている候補を選んで選挙に臨む。

すると、そういう連中は旧悪を暴露される怖さと権力を得た者の常で、即ち、大統領の地位に付きものの特権と名譽を失うまいとして、我々の計画達成の当てにしてよい代理人となるのである。

<十>

・大統領は我々が選んで与える

[フランス議会の]下院は、大統領を選出し、援護し、保護するであろうが、我々は新法案を提案したり既成法案を修正したりする権限を奪ってしまう。

というのは、この権限は責任ある大統領、我らの中にある傀儡に、我々が与えるのである。

そうすれば事の成行きとして、大統領の権威は四方八方から攻撃の的となる。

だが、我々は自己防衛の手段として、人民に呼びかける権限、代議員たちの頭越しに直接 人民に呼びかけて決定させる。

即ち、大統領といえども一員である盲目の奴隷・群集の大多数に呼びかける権限を彼に確保してやる。

<十>

・大統領の責任を回避させる手を打つ

我々の計画がまだ熟成していなくて、実際には非合法の状態でこれら一連の事を全部実行して、尚かつ、我々が立てた大統領に全責任を負わせない為には、大統領周辺の大臣や高官を教唆して、彼らが自分たちの裁量でやった事であり、彼らを身代りにして責任を取らせることで、大統領の責任を回避させる……

この件 に関しては、我々は特別に上院、最高行政裁判所、閣僚会議に役割を与えるが、一個人には勧めない。

<十>

・大統領には憲法を逸脱した新しい法案を提案する権限をもたせる

大統領は、幾通りにも解釈出来る法律の意味を、我々の意図する通りに解釈するであろう。

大統領はさらに進んで、我々が廃止の必要を指示すれば、法律を廃止する事もやるだろう。

その他に、大統領は臨時法を、また、国利国益の為にはこれが必要だと言い繕って、憲法の枠から逸脱した新しい法案すら提案する権限を持つだろう。

<十>

・政治犯罪者が主義に殉ずるものとして尊ばれる事を無くす

政治犯罪者が主義に殉ずるものとして尊ばれる事を無くす為には、裁判の際に、彼らを強盗、殺人犯、その他言語同断破廉恥極まる犯罪者と同じく扱うのである。

そうすると世間は、政治犯をその種の犯罪と同種の不道徳な犯罪と見做し、軽蔑の眼差しで見下げる様になる。

ゴイムが反政府活動を圧殺するのに同じ手段を用いない様、我々は極力努力してきたし、今後もその努力は継続したいと思う。

新聞や演説講演…間接的には巧みに編集した歴史教科書…を通じて、我々は反政府屋を公共の福利の為に殉じた殉難者として宣伝してきたのは、以上の理由からである。

この宣伝が膨れ上って、リベラル達が増加し、何千というゴイムを我々の家畜群に引き込んだのである。

<十九>

・人間を加工するものは教育と訓練である

破壊すべき時期で無い時にゴイムの諸制度を破壊しない様にする為、我々は巧妙にそっと手をかけた。

そして、彼らの機械を動かしているバネの端を摘んだ。

これ等のバネは精妙にしかも秩序正しく動いていた。

我々はそのバネを混沌、放縦のリベラリズムに代えた。

我々は法律の運営、選挙の管理、新聞、個人の自由を、原理的にはどうにでも加工出来る生存物[人間]の土台である教育と訓練というバネを操った。

<九>

・政治活動はゴイ政府と一戦交えさせる為に我々が施した訓練であった

厄介になるかも知れない連中に政事の諸問題に首を突っ込ませない様にするのに、我々は政事に代わるものを熱心に勧めている。

即ち商工業の問題である。

この分野でなら、どれほど騒いでもよろしい!

政事に代わって何か没頭出来るものがあれば、群集は政治活動の類いから手を放して一服する事に異存はない(政治活動は、ゴイ政府と一戦交えさせる為に、我々が彼らに施した訓練であった)。

商工業問題に於いては、我々は政治そっくりの事をやっているかの様に思う様に処方してある。

<十三>

・更に政治から遠ざける為に娯楽、芸術、スポーツをあてがう

彼らがかかずらっている事を解き当てさせない様に、我々は娯楽、競技、ゲーム、色事、遊び場をあてがって、更に政事から遠ざける……

その内、我々は新聞を使って芸術、スポーツなどありとあらゆる種類の競争を始める。

こういう事に関心が向けられれば、我々が彼らと争わなければならない問題から、彼らを完全に遠ざけるだろう。

ますます彼ら自身の意見を反映したり形にしたりする事が難しくなるに従って、人民は我々と同じ口調で語るようになる。

なぜならば、我々だけが彼らの考え方に新しい方向付けを示しているからである… …

勿論、我々とは表面的には無関係の人々を通じてであるが。

<十三>

・我々の政府は既に超法規的な状態で存在している

我々の行動範囲には限界を遮るものが無い。

我らの超政府は既に強力絶大な言葉で現わされている超法規的な状態で存続している…即ち独裁である。

<九>

・武装蜂起にはこういう手段に出る

諸兄の中には、来たるべき時が来ない内に、若しもゴイムが真相を嗅ぎつけたら、彼らは武器を手にして蜂起すると言われる方もおられる様だが、それに備えるに西欧に於いては、最も太い肝玉の持ち主をも戦慄させる恐怖作戦をもって対抗する。

即ち、決定的な瞬間が来る前に全ての首都に地下鉄道、大都市の地下通路が設けられ、事到ればそれらの首都を建物や書類諸共空中に吹き飛ばすのである。

<九>

・反抗する国がある場合は世界戦争という手段に訴える

我々に反抗する国がある場合は、その隣の国から戦争を仕掛けさせ、反逆行動をことごとく叩き潰す位置にいななければならない。

しかし、その隣国も東になって反抗するならば、その折には我々は世界戦争という手段に訴えて対抗しなければならない。

<七>

10)幹部団とメーソン員

・メーソン員は我々の前に立てられた屏風である

あれこれの秘密組織の手による専制、その活動は幕の蔭であらゆる代理人の背後で働くだけに、手厳しい事でも平気でやる。

それら代理人たちは交代するので、不当に襲われないばかりか、秘密の勢力を効果的に助けている。

しばしば交代するお蔭で、長期活動の報酬が節減出来るのである。

見えない勢力というものを転覆する位置にあるのは一体誰か？

此処にこそ我々の特徴がある。

非ユダヤ人を入れてあるメーソン員は、我々と我々の目標の前に立てられた屏風として秘密裏に活動するが、我が勢力の活動計画は、その所在すら人民には全く謎に包まれたままにされる。

・我々の幹部団は特別な人士で構成される

我々の幹部団は、周囲に全分野の知的人士を従え、その中心にあって仕事をする様にしなければならない。

幹部団は、政界人、老練な法曹人、行政官、外交官、そして決定的に重要な事は、我々の特別な教育機関で特別教育を受けた人士で構成されるだろう。

これらの人士は、社会構造の全ての機微を知っていて、政治の初歩から要諦までの全ての用語に通じている。

これ等の人士は、人間の裏側全てに通じ、彼らが操作しなければならない人間機微の体系を熟知している……

言うまでもない事であるが、我々の陣営の補佐役をゴイムから選んではならない。

彼らは何が目的かを考える苦勞をせず、何が必要な事であるかを決して熟考せずに事を運ぶ事に慣らされている。

ゴイムの役人達は、書類に目を通さずに署名をしている。

報酬目当てか野望の為かで仕事をしているのである。

<八>

・ユダヤ人教育の主なる内容は経済学である

我々は全世界の経済人に我らの政府を取り巻かせるであろう。

ユダヤ人教育の主なる内容が経済学であるのは、この目的の為である。

更に、我々の周囲には、銀行家、産業人、資本家…

大切な事は、百万長者といった人達の煌びやかな群がいる。

実際の所、万事は金で解決がつくからである。

<八>

・秘密結社に喜んで入って来るのは一般人の中では軽薄に属する人間が多い

秘密結社に喜んで入って来るのは、世渡りが上手く出世第一主義で、一般人の中では軽薄に属する人物が多いので、彼らを御して我々が仕組んだ事を片付けさせるのは、さして苦勞の要る事では無い。

<十五>

・王国実現まではフリーメーソン支部を世界各国に増設する

我々の王国を実現するまでの期間は……

フリーメーソン支部を世界各国にどしどし増設し、そこへ名士になりそうな人物、現に名士である人物を引き入れる。

それというのも、それら支部は重要な情報集積所であり、情報を流す出口でもあるからである。メーソンの全支部は、我々だけが承知していて他には絶対に誰も知らない中央管理機構の下に置く。

その機構を構成するのは、我らの学織ある長老達である。

支部には代表者が要るが、彼らは上記のメーソンの真の管理機構を覆い隠す為に置かれるものであり、標語や計画は蔭の管理機構から発せられるのである。

<十五>

・我らの王国樹立の際には現存秘密結社はすべて解散させる

この為には、我々の王国到来に反対しいやしくも武器を執る(手にする)者は一人たりとも容赦なく殺戮する。

秘密結社に類するあらゆる種類の新団体結成もまた、死をもって処する。

我々が認めている現存秘密結社は、役立つものも役立ったことのあるものも、一率に解散させ、欧州から遥か離れた地方へ追放する。

余りにも事情をよく知り過ぎたゴイのメーソン員にも同断の処置を執る。

何等かの理由でこの処置を執らなかった者に対しても、追放の恐怖で脅迫しておく。

我々の支配の中心地である欧州からは、秘密結社員全員を追放に処する法律を作成し、公布する。

この決定は変更出来ず、これに対する控訴は許さない。

<十五>

・我らの兄弟達には反対行動をとった結社員を告発する義務がある

今日でも我らの兄弟達は、自分の責任に於いて、自分の家族の背教者や結社に 反対する行動をとった結社員を告発する義務を持っているが、それと同じことを全世界を支配する我らの王国に於いても、我が臣民全員に国家に対する奉仕として義務付けるのである。

このような組織こそが、権威権力の乱用や贈収賄や、我々の機密計画を使い、人間についての超人類的な理論を駆使し、我々がゴイムに植え付けた悪習の全てを根絶させるであろう。

<十七>

・我々は本人も分らない様にメーソン員を処刑する

何人とも避けられない終局は死である。

どうせ避けられないものならば、新秩序の 建設者である我々よりも、建設の邪魔をする人間に早く回してやった方が宜しい。

我々は、同胞の他には誰も気付かない様に、本人自身でさえも死刑宣告 された事が解らない様に巧みにメーソンを処刑する。

必要とあれば全員あたかも 自然死の如く息を引き取るのである。

……我々はゴイムにはリベラリズムを説くけれども、同時に一方では、我が民や我らの代理人達にはひたすら恭順に服させる。

<十五>

・世界同時クーデターの暁には……

世界各地に同時にクーデターを勃発させ、遂に決定的に我々が王国に突入し、現存する政府という政府が誰の目にも没落した事が明らかになった時(これが実際に起こるには少からぬ時間、恐らくまるまる一世紀はかかるだろう)、我々に対する 陰謀の類いは絶対に存在を許さない様に監視する仕事がある。

<十五>

・「反ユダヤ主義」は下層ユダヤ人を監視するには必要である

実際には我々は、我々自身以外のものは、あらゆる種類の支配を一掃したけれども、法律上はまだ数多くのものが残っている。

今日では、何処かの国が我らに対して反抗を示したとしても、我々の裁量下、我々の指導下において形式的に反抗してあるに過ぎない。

一例として反ユダヤ主義は、我々が下層の兄弟達[ユダヤ人]を監視するには必要欠くべからざるものだからである。

<九>

11)ユダヤ王とその王国

・我々は世界の全てを支配すべく神自身に選ばれたのである

預言者達によれば、我々は世界の全てを支配すべく神自身に選ばれたのである。

神は我々がこの使命を遂行出来る様に、我々に天与の才を授けられた。

仮に反対陣営に天与の才が授けられたとしたら、我々に闘いを挑んでいたであろうが、駆出し者というものは所詮古くから定着している者には太刀打ち出来無い。

……さよう!彼らの天才は現われるのが遅過ぎたのである。

<五>

・自然は我々が世界を導き支配する様に創造した

ゴイムと我々間の能力の差違こそが、ゴイムの空っぽ頭と対比して、我々が神の選民として、また、高い人間性をもつ運命が定められているゆえんが明白に証明される。

ゴイムの目は開いていても何も見ていないし、何も創造しない(恐らく物質的なもの以外は)。

この事をもってしても、自然は我々が世界を導き支配するように創造した事が明白である。

<十五>

・富があればこそ万物に秩序をもたらす

我々の手中には、現代最も威力を発揮するもの

… “金” がある。我々は 二日間あれば必要な量の金を我々の貯蔵庫から集める事が出来る。

この事以上に、我々の支配は神の思召しである事を証明する必要があるだろうか。

かような富があればこそ、何世紀にもわたって我々が重ねなければならなかった悪が全て、真実の福利を最終の最終にもたらす。

万物に秩序をもたらす為に役立つ事が疑いもなく明らかであるだろう。

<二十二>

・我々はクーデターでこう語る

我々のクーデターが成功した暁には、我々は様々の階層の人々にこう 言うだろう。「何もかもが恐しく悪くなり、全てが我慢出来ない状態に陥ったが、我々は諸君が被っている苦痛の原因…民族心、国境、身分の違い…を根絶しつつある。

勿論、諸君が我々を断罪するのは自由である。

だが、我々が提供するものに挑戦もしないうちに断罪するとしたら、それはちょっと大胆過ぎるというものではないか」

……すると群集は我々を讃え、希望と期待に膨れ上がり全員こぞって手を差しのべ、我々を激励し、我々を讃える。

<十>

・我々は全ての保護者として超政府の重要性を強調しなければならない

あらゆる手だてをつくして、我々に進んで従う者全ての保護者、恩人を代表 するものとして、我々が超政府の重要性を強調しなければならない。

<六>

・我々は強力に集中化した政府を樹立する

至る所で腐敗が広まっている社会、富者だけが詐欺同然の悪賢い奇策に富んだ社会、たるみ切った社会、道徳が進んで守られるのでは無く、懲罰 厳罰によって維持される社会、信仰心や愛国心が無国境主義的信念に一掃された社会に、どんな種類の統制 支配なら適用できるか？ 後で述べる様な専制支配以外に、どんな支配形態ならこの様な社会にあてはめられるか？ 我々は社会の全勢力をこの手に掌握せんが為に、強力に集中化した政府を樹立しようと思う。

<五>

・我々の専制は一分の隙も無い独裁である

我々の専制は一分の隙も無い独裁である。

それが如何に、炯眼厳格な方法によってあらゆる不満を鎮圧し、全ての制度慣習のリベラリズムを麻痺させるかを知るだろう。

・我が王国の特徴は専制という事の強力さを遺憾なく発揮する

我々は新たな法律によって、国民の政治生活全てを手加減する事無く律しようと思う。それらの法律は、ゴイムが許してきた寛大とか特典とかを一つづつ全部 取り潰すだろう。如何なる時にも如何なる場所でも、行動や言葉で我らに盾突くゴ イムを一人残らず一掃する立場で臨み、専制という事の強力さを遺憾なく発揮するのが、我が王国の特徴である。

<五>

・我々の憲法発布の翌日からは永久に抹消されねばならない事がある

新憲法発布の翌日からは、新聞報道の自由、結社の権利、 信教の自由、その他あまたの事柄は、人間の記憶からは永久に抹消されなければならないか、急激な変更が加えられなければならない。

<十一>

・如何なる場合でも我々は人民と権力を分け合うことはありえない

憲法発布のその瞬間、世界の人民は革命が成し遂げた巖然たる事実には呆然とし、まだ恐怖心と半信半疑の気持ちに捕われている時から、我々がすこぶる強力、難攻不落、かつ、十二分過ぎる位力に溢れていて、如何なる場合であっても、彼らに一顧も与えず、彼らの意見や意志には一瞥も加えず、如何なるささやかな反抗の表明も示威も、時と所を問わず、一つ残らず粉碎する用意があり可能であり、我々は取るべきものは全て取り、如何なる事情にせよ、我々は彼らと権力を分け合うことはありえない……

そうすれば、彼らは恐怖に身震いして何事にも目を閉じ、事の成行きを最後まで見守る他は無いであろう。

ゴイムは羊の群であり、我々は狼である。

狼が羊の群に入ったらどういう事が起こるか、御存知であろう。

<十一>

・我らの強さは離散より生れ来った

神は与え給うた。

我ら神の選民に、離散という贈り物をして下さった。

それは万人の目からは我らの弱さと映るが、我らの強さは離散より生れ来ったのである。

それが今や全世界支配という戸口に到達している。今や我々が据えた基礎の上に築くべき事は、余すこと僅かとなっている。

<十一>

・人民は我らの独裁者に向ってこう叫ぶだろう

憲法廃止以前に我らの独裁者が認められるかも知れぬが、その日が来ればそれまでの支配者たちの無能無策に・・我々が仕組んだことであるのだが・・業を煮やした人民たちは、大声で叫ぶだろう。

「奴らを追放しろ、世界を治めるのは一人がいい。俺達をまとめて争いの種を無くしてくれ・・国境、民族、宗教、国債、そんな物は御免だ・・平和と秩序をくれ、今までの支配者や議員が決してくれなかった平和と秩序を！」

<十>

・悪の予防接種を施せばゴイムは我々の支配下に入る

だが、諸氏は完璧に理解されていると思う。

全ての国々でこの様な叫びを挙げさせるには、全ての国々で、紛争、憎悪、闘争、羨望、さらに拷問、さらに飢餓によって、人間性が疲労困憊の極に達するまで、人民と政府との関係を悪化させる事が絶対不可欠である事を。

これら悪の予防接種を施す事によって、また欠乏によって、ゴイムは金銭その他全ての事にわたって我々の支配下に入る以外の事は考えなくなる。

正し、若しも世界の国民にホッと一息でも入れさせるならば、我々が渴望する時は九分九厘到来しないのである。

<十>

・群集を一大盲目力に仕上げる

群集は、従順に応待すれば見返りがある我々の話を聞く事だけに慣らされる。

この様にして、群集の指導者として我々が彼らの頭に据えてやった代理人の指導なくしては、どんな方向へも一歩も足が踏み出せないほど総員を一大盲目力に仕上げるのである。

人民は新しい指導者達が自分達の生計、報酬、あらゆる種類の利益になる事を握っている事が判るから、この方式に服従する。

<十>

・我々の王国ではゴイムには未来の幸福の為に苦しみを引き受けさせる

ゴイの社会には、根深く対立抗争の種を植え込んでおいたので、秩序を回復するには権威の力を直接見せつけた容赦無い手段を執るより他は無い。

苦しむ者に一顧だに与えてはならない。

未来の幸福のために苦しみを引き受けさせるのである。

如何なる犠牲を払ってでも福利を達成する事こそ、どんな政府でも自分たちの存続を忠実に考え、特権維持ではなく職責完遂を顧みるならば、断じて遂行しなければならない義務である。

<十五>

・我々は犯罪者は何をさておいても逮捕する

我々は、犯罪者とあれば根拠が十分であろうと不十分であろうと、まず逮捕する。

万一間違えるといけないという事で、政治的墮落や犯罪を犯した疑わしき者に逃亡の機会を与えると、とんでもない事である。

政治犯の場合は、文字通り峻厳でなければならない。

単純犯罪で動機の再審議を許可し、特別扱いをすることが可能な場合でも、職権を持った者の他には何人といえども事件に介入する口実は存在しない。

<十八>

・反政府活動屋は象に対して吠え立てる小犬以外の何ものでも無い

反政府活動屋は象に対してキャンキャン吠え立てる小犬以外の何ものでも無い。組織的に活動している政府にとっては、警察の見地からではなく公共の立場から見ても、小犬が象に吠え立てるのは、象の強さや力を全く知らないからであると見做す。これには両者の力関係を一度だけ見せてやる以外は何もする必要はない。そうすれば小犬は吠え立てるのを止め、次からは象を見ると尻尾を巻いて逃げ出すであろう。
<十九>

・我々の臣民の三人に一人が他の二人を監視する様にする

我々の計画では、我々の臣民の三人に一人が、国家への無料奉仕義務として他の二人を監視する。かつての様にスパイは恥ずべき事では無く、評価すべき事なのである。しかしながら、根拠の無い事を密告した者は厳罰に処し、密告権の乱用を慎ませる。
<十七>

・資本家に富を集中させたのはゴイム政府の力が強くない様にするため

貧しい者に課税することは革命の種を蒔くことになって、小を追って大を逃し、国家の損害となる。そんなこととは全く別に、資本家に課税するのは、個人の富の増加を防ぐ事になる。我々が昨今資本家の手に富を集中させたのは、ゴイム政府の力・国家財政・が強くない様に、平衡力をつける為であった。
<二十>

・我々は小さな親方製造業を再編成する

我々は小さな親方製造業を再編成して、個人資本の工業家を倒すという狙いを 持っている。大規模の製造業は必ずしも意識的では無いにせよ、政府に反対する考え 方を群集に植え付けるので、この処置は欠かせない。小さな親方たちは罷業を知らず、既存の秩序にしっかり結び付いている。
<二十三>

・現在の課税方式はゴイムの間不満と反抗を起こさせる為にのみ必要である

現在の課税方式はゴイムの間不満と反抗を起こさせるという理由でのみ、我々には必要なのである。

我々の王は、均衡を保つ事と安寧を保証する事に強みがある。

それが為には、資本家たちは国家機関を正常に動かす為に自分の所得の何分の一かを投げ出す事が絶対に必要なのである。

ゆとりのある人々は公共の必要を賄わなければならない。

そういう事が行われると、貧民は富豪を怨まなくなり、富める者は国家維持にはなくてはならない財政的支柱であり、国家に必要なものを支払っているからには、安寧福利の守り役であるという事が解ってくるのである。

<二十>

・貨幣の代用に紙幣を使う事が確実に流通を阻害した

貨幣の代用に紙幣を使う事が、確実に流通を阻害した。

この状況が続いてどういう事になっているかは、既に明らかである。

<二十>

・我々の法律の原則は官憲に対する服従である

我々が公然と世界に乗り出し、恩恵を施す折には、我々の法律は全て、如何なる余計な解釈をする余地もなく、何人にも完璧に解る、簡潔、明白、確固としたものであるだろう。

そこに貫徹させておくべき原則は、官憲に対する服従であり、この原則によって荘重高潔なものとなる。

<十五>

・法は逸脱墮落に罰を課し見せしめにする為に作られる

裁判官達は寛容な所を見せたくなるが、それは法の正義を破る事になるという事を弁えなければならない。

法は逸脱墮落に罰を課して見せしめにする為に作られたのであって、裁判官の徳性を見せびらかす為の物では無い……

そんなに徳性を見せびらかしたければ私生活でやればいいのか、人間生活教育の公共の場を使うべきでは無い。

<十五>

・我々の絶対主義は万事に渡って論理が貫徹している

我々の絶対主義は万事に渡って論理が貫徹しているので、どの判決一つをとってみても、我々の最高意志は尊重され一点の疑念もなく遂行される。

あらゆる種類の不平苦情を無視し、あらゆる種類の示威抗議には制裁を加えて見せしめにする。我々は控訴権の様な、決定を覆す権利を廃棄する。

そういう事は専ら我々の一存・支配する者の判断に預けられる。

我々が任命した裁判官が誤った判決を下す事がある、と言う様な考えを人民に与える事は断じて許してはならない。

<十五>

・我々は全教育課程から政治と法律を排除する

我々は全教育課程から政治と同様に法律も排除する。

政治法律に関しては、予め許された者の中からさらに卓越した人物を選び、数十人という少数の人物にのみ教える。

大学はもはや、喜劇や悲劇を書く様なつもりで法案や計画をこね上げたり、父親達でさえも理解できなかった政策問題に 関わる青二才を世の中に送り出してはならない。

<十六>

・我々が行う教育の原理は従順である

我々は彼ら[ゴイム]の教育の中に、完膚なきまでに彼らの秩序を破壊する原理を持ち込まなければならなかった。

しかしながら、我々が権力を掌握した時には、秩序破壊の種になる様なものはことごとく教育課程から駆逐し、青年を権威に従順な子供にし、平和安寧の希望として統治者を頼みの柱とする様に育成するのである。

<十六>

・我々の歴史研究はゴイム政府が犯した誤ちをことごとく叙述する

どんな形の歴史研究も皆そうであるが、範を過去に求める古典主義で行くと良い例よりも悪い例の方が多いのであって、我々はそれに代えるに未来研究をもってする。

我々は、我々にとって好ましくない過去何世紀かの人類の記憶を一切消去し、ゴイム政府が犯した誤ちをことごとく叙述する。

実際生活、秩序に対する義務、人民相互間の関係、悪を伝染する利己的な実例、その他教育の本質に関わる類似の問題の研究、これらが教育計画の最前線に置かれるだろう。

その実施にあたっては職業ごと、或は生活状態によって別々にし、教育は決して画一的に行ってはならない。

この処置は、特に重要である。

<十六>

・我々は私学という私学をことごとく廃止する

我々は私学という私学をことごとく廃止する。教育施設の中では、あたかもクラブの様に、親達との集まりを持つ事は許す。

休日には、そういう集まりに教師が参加して、人間関係、見せしめの罰則、神の選民では無い者の色々な制約等々の問題、止めには、まだ世界で明らかにされていない新たな哲学原理について、課外講義で読んで聞かせるだろう。

その原理は、最終的に我々の信仰に従わせる為の移行期の教理として、我々が提起するのである。

<十六>

・討議や投票は邪推と誤解の烙印を押す様なものである

政府の計画というものは、一人の頭脳で万端出来上っているべきである。

何故ならば、多数の頭で部分部分をバラバラに作らせると、決して確固不動のものにはならない。

それ故、我々は行動計画を知っているのは良いが、その巧妙さ、各部分の緊密な連関性、各要点の隠れた意味を破壊しない様にするには、討議してはならない。

度重なる投票という手段でこの種の労作を討論し修正を加える事は、邪推と誤解の烙印を押す事になり諸計画の進行との結びつきを妨げる。

我々は計画が強力に適切に仕組まれる事を欲する。

故に、我々は我々の指導の天高い労作を、群集や或は特別な団体にすら毒牙にかけさせてはならない。

<十>

・人民は我々が王を神と崇めて帰依献身しその専制に従うであろう

我々の政府は、支配する側から言えば族長父権的保護という外観を呈するだろう。

我々民族と我らの国民は、王という人物に、王との関係はもとより、国民が望む事、国民がやっている事、国民間の色々な関係などの何もかもを気使う父の姿を見るだろう。

安穩無事に生きたいと切に願うならば、国民は完全にこの考えに囚われ、この方の保護と指導無しには何もやって行けなくなり、とりわけ、我々が任命した者達が私利私欲の為にではなく、ひたすら誠実に命令を実行しているだけである事を知った時には、我々が王を神と崇めて帰依献身し、その専制に従うであろう。

<十五>

・人類を服従に立脚させる事は強者の権利である

義務を実行させる権利は、臣民に対する父たる政府の第一の責務である。

人類を天 然が定めた秩序即ち服従に立脚させる事は、強者の権利である。

この世の万物 は、人間でないものでも環境か、そのもの自身の本性か、いずれにしてももっと強い者に服従させられている。

であるからこそ、善を実現する為に、我々は更に強い者になろうではないか。

<十五>

・悪に懲罰を加える事は一大教育課題である

我々は確立した秩序に違反する者は何人でも、躊躇なく犠牲にせざるを得ない。見せしめに悪に懲罰を加える事は、 一大教育課題である。

<十五>

・我々の王国は金融市場を全て廃止する

我々が世界の王座に昇る時は、我々の利益に反するかかる財政上の窮策を 痕跡も残さず一掃し、併せて金融市場を全て廃止する。

我々の権威は価格変動 に左右されるべきでは無いから、価格上昇も下落も出来ない様に、法令をもって価格というものを固定してしまう。

(価格を吊り上げるのは落とす為であり、実にこの方法によって我々はゴイムとの関係の初期に彼らを弄んだのである)。

<二十一>

・罷業は政府にとっては破滅的な一大問題である

罷業は政府にとっては破滅的な一大問題である。

我々は時の権力を我らの手に移す時に、この手を使う。

<二十三>

・我々の王国では酩酊も法律によって禁止する

酩酊も法律によって禁止し、酒の力で野獣に変わる人間性に対する罪として処罰する。

<二十三>

・我々の国家では検閲を財源に変えてしまう

出版物の刊行は、今日ではそれを検閲するとなると大変金のかかる事であるが、我々は我々の国家にとって得な財源に変えてしまう。

新聞等の発行団体や印刷所に許可を出す前に、特別印紙税と[損害に備えての]保証金を納めさせるのである。

これをやっておくと、新聞等の如何なる攻撃からも政府を守る事が出来る。我々に対する新聞等の攻撃などがあろうものなら、我々は仮借なく罰金を科する。

保証の形をとるこの様な印紙税、保証金、罰金といった方法は、政府の大いなる財源となるであろう。

<十二>

・我々を攻撃するものの中には我々が設立した機関も含まれる

我々を攻撃するものの中には、我々が設立した機関も含まれるという事である。

だが、彼らは、我々が予め改正しようと決めた部分のみを攻撃するのである。

<十二>

・一片の記事と言えども我々の検閲抜きには公表される事はない

一片の記事と言えども我々の検閲抜きには公表される事は無い。

現在ですら 既にこの事は達成されていて、全てのニュースは少数の通信社に世界中から集められ、そこから配布される様になっている。

通信社は追って完全に我々の傘下に入り、我々が許可したものだけが一般に供給される様になるだろう。

・我らの敵対者をこうして罠にはめる

文学とジャーナリズムは、最も重要な教育手段のうちの双璧であり、それ故に、我が政府は大多数の雑誌の所有主となる。

この事は、独立系新聞の有害な影響を緩和し、公衆の精神に甚大な影響をもたらすだろう……

仮に十の新聞に発行許可を与えたとすると、我々は三十に及ぶ新聞社を設立する。

しかしながら、公衆はそんな事情は夢知らず考えて見ようもしない。

我々が発行する新聞は全て、見た 目には反対の傾向や意見を持ち、それ故に我々に対する信頼を集め、我々にとっては全き疑う事無き反対者を呼び寄せる。

この様にして、我らの敵対者 は罠にはまり、牙を抜かれるのである。 <十二>

・新聞の見せかけの一斉射撃には意味がある

我々の機関は、我々の公式の新聞に対して見せかけの一斉射撃を浴びせる。

我々に対するこの集中砲火は、ほかの目的、即ち、言論の自由はまだちゃんと存在していると納得させ、我々が代理人に、反対者達は我々の指示に対して、実のある反対意見を これっぽっちも示さなかったからには、我々に反対する機関は皆、空騒ぎしているだけではないかと断言する材料を提供する。

公衆の目には 感知されないが絶対確実なこの様な組織方法は、公衆の関心と信頼をわが政府に惹きつけておくのに最高の方法である。

<十二>

・新体制下ではどの種類の新聞にも社会腐敗を暴露する記事は載せさせない

我々が完全な主権を手中にするまでの過渡期の新体制の時期まで進んだら、もはやどの種類の新聞にも社会腐敗を暴露する記事は載せさせない。新体制下では万人が完全に満足しているから犯罪を犯す者は居ないと信じさせる事が必要である。

犯行の真相解明は、被害者とたまたま目撃した者だけに留めておくべきであって、それ以外には必要無い。

<十二>

・我らの王は宴会を一切廃止する

支配者の代表的な行為に、儀礼の為の宴会というのがあるが、これは貴重な時間を浪費するものであるから、王に統括と熟慮の時間を確保するために、宴会は一切廃止する。

王の力は、煌びやかな王位を取り囲み、自分の事しか考えず国家の問題 なぞ念頭に無い取り巻き連中にかしづかれ、取るに足らない事に時間を割かれるべきでは無い。

<二十>

・国の資産はことごとく王が所有者である

我らの王は、法的な形では国の資産はことごとく王が所有者であり(形だけでなく実際にも容易にそれが適用できる)、国内流通を規制する為にはあらゆる資産の総額から合法的に徴収する事が出来る……

富める者は、税金を払えば残りの金は国家が財産不可侵権で保障してくれ、尚且つ正直な利益を保護してくれるのだから、余分な金の一部は国家に御自由にお使い下さいと差し出すのが義務であると考えなくてはならないのである。

私は今、「正直な」と言った。

これは財産をしっかり監督す れば、法律でいう泥棒を駆逐するという事を意味している。

<二十>

・我々の支配者は目に見えない護衛だけに守られる

我々の支配者は目に見えない護衛だけに守られる。

反政府暴動があるやも知れず、王にはそれを抑える力が無く逃げ隠れているという考えは断じて与えてはならない。

<十八>

・公然と護衛する事は強そうに見える王者の弱さを晒す事になる

公然と護衛する事は、強そうに見える王者の政治組織の弱さを晒す事になる。

我々の王は人民の中に行く時は常に、見た目には全く偶然そこに居合せた物見 高い男女の群集に取り囲まれたかの様に見せる。

……公然たる護衛警察は王者の神秘的権威を失わせる。

少々大胆さを持ち合わせていれば、誰でも自分は護衛を自由に操れると思込み、暗殺者は自分の力に自信を抱き、時至れば眉間に一撃を加える瞬間を伺う……

ゴイムには、我々は正反対の事を教えて来たが、目立つ護衛策がどんな結果をもたらしたかを、事実そのものによってとくと見る事が出来た。

<十八>

《終》